

評価事業報告書

2017

---

認定NPO法人  
トリトン・アーツ・ネットワーク  
第6期 評価委員会

---

## はじめに

本報告書は、2017年度の認定 NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワーク（以下、トリトンアーツとする）の活動に関する第6期評価委員会（初年度）の報告書である。

本委員会は、これまでの各期における評価委員会の活動を参照しつつ、2020 オリンピック・パラリンピック東京大会の後のレガシーを考慮に入れながら、トリトンアーツのミッションを最大限に達成するための方策に関し3年間で一定の方向性を示すべく、検討を開始した。「評価」とは何かについてはさまざまな考え方があろうが、本委員会では、PDCAサイクルのアクトを視野に入れながらチェックを行うべきであるという点で委員間の合意があり、通常の評価よりもやや踏み込んだものを想定した。

トリトンアーツの活動は、ホール事業にせよ、コミュニティ事業にせよ、職員体制や物理的制約の中、きめ細やかな配慮の下にクオリティを重視しながら実施されており、現時点でこの分野の水準をはるかに超えた良好なパフォーマンスと認められる。しかしながら、社会全体が大きく変化し、不確実性が増している中、不断のイノベーションが求められるのは文化の分野でも同じである。このような共通認識の下、初年度となる今回の報告では、後ほど詳述するが、トリトンアーツの自己評価に基づくメタ評価を行い、次年度以降の議論につなげることにしたものである。

本委員会は、認定 NPO 法人あっちこっち 理事長の厚地氏、公益財団法人東京交響楽団 専務理事楽団長の犬野氏といった現場を熟知した実践家に加え、公益社団法人企業メセナ協議会 常務理事 澤田氏、中央区文化・国際交流振興協会 事務局次長 町田氏といった文化芸術活動の支援や自治体に深い知見を有する委員に参加いただくことで、トリトンアーツの活動そのものの評価のみならず、その先のいわゆるアウトカム、あるいは地域・社会への貢献までを視野に入れた評価が可能となった。また第一生命保険株式会社 DSR 推進室課長の泉氏、株式会社第一生命経済研究所 主席研究員 的場氏にもオブザーバーとして参加いただき、主たる支援者である第一生命保険株式会社のポリシーや、より広い経済的な見地も議論に加味することが期待できると考える。

なお、本年度は、3回の会議に加え、各委員ができるだけトリトンアーツの活動を視察し、現況把握に努めた。各方面で活躍する多忙な委員に貴重な時間を割いていただいたことに対し、この場を借りて感謝する。なお、この視察報告は資料として本報告に添付した。もちろん時間的制約もあり、トリトンアーツの活動すべてを網羅するものではないため、引き続き2年度においても、視察を続行する予定である。

残りの期間で一定の成果を出すためには、本年度に指摘されたいくつかの課題をより具体的に検討し、喫緊の課題を特定・抽出することや課題解決に向けた方法論などに関して議論を深化させることが必要になると思われる。SWOT 分析やポジショニングの再定義など具体的な提案も本年度の議論の中でなされているが、いずれも次年度で改めて検討したい。

最後に会議設定や議事録作成など迅速かつ効果的にご対応いただいた事務局 小川氏、古市氏にも感謝する。

2018年6月 ローマにて  
トリトンアーツ第6期評価委員会 委員長  
政策研究大学院大学 垣内恵美子

# 第1部 トリトンアーツ事業への評価について

第6期としての初年度にあたる2017年度の委員会は、2018年2月から5月にかけて3回実施された。2017年度の業務報告等の結果を踏まえて評価を行った。

## 認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク 第6期評価委員会（2017年度）

### 1. 委員会メンバー

- 委員長 垣内 恵美子（政策研究大学院大学 教授）  
委員 厚地 美香子（認定NPO法人あっちこっち 理事長）  
委員 大野 順二（公益財団法人東京交響楽団 専務理事楽団長）  
委員 澤田 澄子（公益社団法人企業メセナ協議会 常務理事）  
委員 町田 一雅（中央区文化・国際交流振興協会 事務局次長）  
オブザーバー 泉 菜々子（第一生命保険株式会社 DSR 推進室課長）  
オブザーバー 的場 康子（株式会社第一生命経済研究所 主席研究員）  
事務局 小川 由美子（政策研究大学院大学 研究員）、古市 彩佳（同左）

### 2. 2017年度評価委員会開催記録

- ・第1回 2018年2月2日（金）
- ・第2回 2018年4月4日（水）
- ・第3回 2018年5月16日（水）

### 3. 第6期評価活動について

第6期評価委員会では、第一生命ホールにおけるトリトンアーツの活動に関する評価を行うに当たり、初年度はメタ評価を行うことで合意した。メタ評価とは、ある社会的活動が人々や地域社会に対し良い変化をもたらしているのかどうかという「評価情報」を生み出すプログラム評価に対し、その「評価情報」を生み出す過程や評価情報の質が適切であるかどうかを点検するものである。

具体的には、トリトンアーツの4つの事業（ホール公演事業、コミュニティ事業、人材育成事業、NPO組織運営体制）ごとに、それぞれの活動についてトリトンアーツにヒアリング、自己評価を求め、この自己評価に関する各委員のコメントを受ける形で行い、2017年度事業評価とする。なお、トリトンアーツの活動の詳細情報については、本報告書前編の事業報告書を参照されたい。

もちろん、今回の評価は、初年度でもあり、時間的、物理的制約もあったことから、トリトンアーツスタッフによるプログラム評価を通じ、全体像の把握と総括を行うことにとどまっている。次年度以降については、今回の評価を踏まえ、多様な専門性を有する各委員の協力を得ながら、各課題を抽出する等、より踏み込んだ議論を行いたい。

## 第Ⅱ部 2017年度評価活動

### 全体総括

#### ■トリトンアーツによる総括

2017年度も前年度に引き続きビジョン「音楽でつながり、音楽とともに生きる社会の実現」を目指して、ミッション「音楽によるコミュニティの活性化」「音楽の楽しさを分かち合い、心を豊かにする」を果たすべく、ホール公演事業とコミュニティ事業の2つの柱をメインに事業を行った。課題として、私たちの活動や第一生命ホールの存在があまり知られていないということがあるため、より多くのお客さまに周知するための取組みに特に力を入れた。

**ホール公演事業** については、前年に引き続き NHK による収録が入り（アキロン Q）、新聞に取材記事が掲載され（三浦一馬、白井光子）、また音楽専門誌、音楽専門サイト等で公演評が取り上げられるなどの外部への発信が実現し、一定の効果を上げることができた。チケット売上に関しては、完売した公演があった反面、設定した目標達成に至らぬ公演もあった。ただ観客については、ターゲットとして定めた狙い通りの観客層を獲得、特に子ども向け公演でその傾向が顕著であった。中央区内には王子ホール、浜離宮朝日ホール、ヤマハホールと民間の室内楽ホールがあるが、子どもの人口が増える晴海の地の利を生かして子ども向け公演をシリーズ化して行い、多くの回で完売になっていることは、トリトンアーツが NPO 法人として主催公演を行う第一生命ホールの特徴といえる。

**コミュニティ事業** も、中央区内の他のホールにないトリトンアーツならではの活動である。2001年度からスタートした中央区立小学校での小学校4年生に向けたアウトリーチが、教育委員会の「特色ある教育活動」の中で実施されるようになって2年目となり、全16校のうち14校で実施できたことから、中央区の中での認知が進んできたと実感している。江東区の豊洲、有明地区での小学校のアウトリーチも定着してきたこともあり、子ども向けの公演に中央区教育委員会だけでなく、2017年度からは江東区教育委員会からも後援をいただけることになった。

**人材育成事業** としては、大学から派遣されたインターンシップ生は1名だったが、トリトンアーツの活動に興味を持ち、登録サポーターやオープンハウスプロジェクトサポーターとして参加する大学生、大学院生が増えており、少しずつ周知されてきているように感じている。若手演奏家を育成する「アウトリーチセミナー」の応募人数も、特にヴァイオリンは例年より多く、アウトリーチに意識の高い方が多かった。またサポーター（ボランティア）活動は、制度をリニューアルして2年度目となり、登録した71名の多くの方が活動に参加、研修会や勉強会も行って、適材適所の充実した活動ができたと考える。

**NPO 組織運営体制** は働き方改革、生産性向上を掲げ、総労働時間削減を図ったが上期は繁忙となり改善されなかったが、ベテラン社員の7月後半の育休復帰により全体的に落ち着いてきた。財政面では法人会員の新規加入や個人寄付もあり、単年度黒字となった。ホームページ改訂は検討の結果、次年度実施となった。

## ■ 評価委員会としての総括

トリトンアーツの活動は、組織・予算規模、ホールの使用条件などを考慮すれば、2017年度は全般的に健闘しており、ミッションを十分果たしていると評価できる。特にコミュニティ事業、人材育成事業については概ね達成できていると判断できる。あわせて、これらの優れた活動をより幅広く地域社会に情報提供することが重要課題であるという点も指摘された。

一方、マネジメントに関しては、第一生命ホールのキャパシティにより観客数や上演内容の制約があることを前提に考えても、さまざまな論点が浮かび上がっている。特にホール公演事業に関し、これまで実績のあるカルテットなどの公演は、音響に優れたホールの特徴を活かし、固定客のあるブランド力につながる活動であるが、観客動員の観点からはかなり不利といわざるを得ない。また、多くの申し込みがある「ロビーでよちよちコンサート」は、一定の質を担保するために観客数を制約せざるを得ず、回数を重ねるほどホール賃料がかかり、赤字拡大につながってしまう。ニーズは大きいですがNPOとしてできる範囲は限定されるであろう。また、アウトリーチについても非常に過密な学校カリキュラムを考えると、事業拡大にはかなりの工夫が求められる。

トリトンアーツは中央区における地域密着活動も重点活動のひとつと位置づけており、優れた事業をきめ細やかに実施し、目に見える形での結果も出てきている。若い世代の人口流入が続く中央区の地域特性を考慮しながら、同区内に展開している他の文化施設との差別化も考えたポジショニングの再考も必要となるかもしれない。さらに、現時点では個別独立して行われている第一生命ホールの管理運営とトリトンアーツの活動について、ホールのブランディング、地域への一層の貢献といった観点から考えると、両者の連携強化、あるいは一体化に向けた検討も求められてくる。今後、20周年に向けて議論を継続したい。

## 四つの事業に対する評価

### ■ トリトンアーツの4つの事業

1. ホール公演事業
2. コミュニティ事業
3. 人材育成事業
4. NPO 組織運営体制

以下、実施内容・自己評価については、認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク理事及び事務局長からの提供資料及び第二回会議における発言から抜粋した内容であり、評価委員による評価・コメントについては、先の自己評価に対するメタ評価として、同会議での評価委員によるコメントをとりまとめて記したものとする。

### ■ 評価記号

- おおむね達成
- △ 一部未達成
- × 未達成
- ? 判断保留

# ホール公演事業

## 実施内容・自己評価

### 主な改訂

#### 新企画

- ・三浦一馬（バンドネオン）東京グランド・ソロイスト
- ・室内楽ホール de オペラ 林美智子の「フィガロ」
- ・トリトン晴れた海のオーケストラメンバーによる室内楽
- ・ポルドー国際弦楽四重奏コンクール覇者コンサート

#### リニューアル

- ・「昼の音楽さんぽ」の聴衆層拡大を目指し、夏休みスペシャル 2 回実施
- ・630 開演時間、回数の見直し、645 コンサートで年 1 回実施

#### 新規共催公演

- ・金子三勇士主宰  
「未来のピアニストをハンガリー派遣選考会」

### 実施内容・自己評価

- ① 公演シリーズ・公演ごとのねらい、目的に沿った企画・制作の実施とフォロー ⇒ ○
- ② 公演別集客目標・チケット売上目標達成 ⇒ △
- ③ 多面的な広報の取組強化 ⇒ ○
- ④ 2018 年度以降に向けた検討 ⇒ ○

・ビジョンに対するコミュニティの活性化というミッションに向けての改訂ポイントとして、より多くのお客様に知っていただくために新企画を実施し、既存企画のリニューアルにも取り組んだ。新しく実施したことについては外部に発信できたと考える。

・従来にない新しい取組がなされたか、という点については、他の音楽事務所と一緒にマネジメントを行い、招聘元と共にセットチケットの販売などを行った。

・多面的な広報に向けて SNS を活用。9 月から Facebook 管理担当を決め、活発に発信するようになった。フォロワーも増えているが、チケットの売りに直結するまでの効果はまだ感じられていない。

・チケット売上高目標については、概ね達成できた。公演別集客目標・チケット売上高目標の達成について、例えば地域のホールと成り立っているかという点では 4 歳以上から入場できる子供向けコンサートは 50-60%と、子供向けに関しては地域のお客様が狙い通り来ている。

## 評価委員による評価・コメント

・新しい企画や改善点については、ビフォーアフターの数字があると踏み込んだ議論がしやすくなる。（垣内）

・達成率は常に意識した方が良いと考える。毎年改善が進んでいる点は素晴らしいが、一年間では判断し得ないことも多く、中長期的な視点を持つことが必要と思われる。例えば、中央区におけるアウトリーチ事業について 5 年間の活動状況をマッピングするなど視覚的に捉えることも有効と考える。（澤田）

・チケットの購入目標が低い、というのが率直なところ。本来であれば完売を目標とするなど、内的な目標がもう少し高く設定されても良いのではないかと感じる。また各世代へのアンケートなども実施されているようだが、数値のみならず「生の声」も重要ではないだろうか。（大野）

・第一生命ホールの活動も中央区のコアになってもいい内容だと思う。すごい内容をやっていると思うので、郷土愛のようなものにつなげるのが出来るのではないだろうかと感じる。（澤田）

・中央区は文化資源に恵まれていて、近隣にも良いホールがあるため、区として敢えて「音楽のまち」として取り組まなければならないという雰囲気ではないのかもしれない。（ホールへの）アクセスが少し不便であるため、多少不便でも「良い音楽がある」という魅力が発揮されることが大事だと思われる。（町田）

・どの公演事業も素晴らしいが、初来場者をリピーターにするために公演によっては中身をブラッシュアップしていくことが必要。演奏者がお客さんともっとコンタクトを取る、コミュニケーションをとってほしいと感じる公演もあった。一度足を運んでくれたお客さまを次に引っ張るきっかけを作る必要がある。（厚地）

# コミュニティ事業

## 実施内容・自己評価

### 主な改訂

#### 継続

- ・中央区立中学校等のアウトリーチ新規実施先の開拓

#### リニューアル

- ・オープンハウスプロジェクトサポーターとスタッフの連携によるオープンハウス 2017 の成功
- ・室内楽アウトリーチセミナーカリキュラム修正による若手演奏家の支援充実

### 実施内容・自己評価

- ① アウトリーチのねらい、目的に沿った確実な実施とフォロー ⇒ ○
- ② ビジョンの実現のためのアウトリーチ先の新規開拓 ⇒ △
- ③ 東京都と第一生命のワイドコラボ協定の連携検討 ⇒ ○
- ④ ホール周辺在住、在勤者始め、誰もが気軽に音楽を楽しむ機会の提供 ⇒ ○
- ⑤ コミュニティ活動の発信力強化 ⇒ ○

・コミュニティ事業は継続していくことが重要と考える。これまでは小学校に手厚く行っているが、中学校に対しても行いたいという希望がある。中央区は小学校側から申請していただかなくてはならないが、教育委員会の方から予算が出るため、中央区の小学校は昨年度同様、2018年度も安定して14校実施が決定している。

・明石幼稚園などでの新規楽器紹介に加え、新しい試みとしては月島第二小では音楽と美術のワークショップを実施。中学校は様々な事情から実施ができなかったが、引き続き働きかけていきたい。晴海総合高校では、演奏を聴かせるだけでなく、吹奏楽部への指導を実施することができた。晴れた海のオーケストラのメンバーにもコミュニティ事業に出てほしいと、メンバーが所属するカルテットセレシアによるアウトリーチを実施。

## 評価委員による評価・コメント

・アウトリーチ実績はさらに周知する必要がある、アウトリーチがいかに重要かを学校長に理解してもらうことが望ましい。学校も音楽そのものに関心がないわけではないので、スケジュールの合間を縫って参加してもらえるような働きかけをできるだけやっていきたい。良い取組なので、多くの子供たちに体験してもらいたい。小学校四年次に受けたアウトリーチ事業で音楽に関心をもった児童が実際にホールへ足を運ぶための仕組みを作れたら良いと考える。(町田)

・ワークショップにより音楽に興味を持つ生徒もいることから、それをハブとしてアウトリーチに参加出来るしくみがあれば良いと思う。オープンハウスやセミナーに関しては、さらに広報する必要があると思われる。(厚地)

・音楽のまちに関しては刷り込みも大事かもしれない。通行人の目に触れるような、目に見えるようなかたちの広報もあるのかなと思う。(厚地)

・アウトリーチ後に、子供たちだけでホールへ足を運べる仕組みが出来るとう望ましい。また第一生命が埼玉県で実施した「夢のかけはし事業」のようなものを中央区の子供にも適用出来ると良いと思う。(泉)

・アウトリーチのフォローは検討する必要がある。また興味のないところから潜在的な能力を引き出す、興味のある方をさらに引き上げる、という二つの方法があるが、今、興味を持っている方へ効率的に実施出来るのであれば「夢のかけはし事業」のようなことにも積極的に参加してみてもどうか。(垣内)

# 人材育成事業

## 実施内容・自己評価

### 主な改訂

#### 継続

- ・サポーター活動リニューアル2年度目の活動充実
- ・プロジェクトサポート始め  
登録サポーター個々の活動活性化

### 実施内容・自己評価

- ① 若手演奏家への支援の充実、  
アウトリーチセミナーでは、公募で受講生を募り、  
アウトリーチで活躍できる演奏家育成 ⇒ ○
- ② アートマネジメント専門人材の育成・  
育成機関としての役割向上 ⇒ ○
- ③ サポーター活動リニューアル2年度目の進化⇒○
- ④ スタッフの人材育成 ⇒ △

・実際にプログラムを実施したのは4か所。担当スタッフ曰く、できあがるまでは大変だが、アウトリーチのおかげで貴重な体験ができたとの感想あり。2018年度はより集中的に取り組めるよう、オープンハウスの前に3日間の集中セミナーを実施する。また、セミナー生とセミナー修了生とが集中セミナーの中で切磋琢磨できるよう計画している。またセミナー修了生への演奏機会の提供も予定している。

・インターンとして昭和音大1名を受け入れ、またインターンではないがサポーター登録者であった地元月島第二小・晴海中学校出身の横国大院生が、様々なアウトリーチを視察しサポーターとして活躍した。

・対外活動取組みとしては社外講師の引き受け、人材交流としては12月にジャヴィアン先生のアウトリーチのワークショップを実施し、アウトリーチ演奏の参加者だけでなく我々スタッフも一緒に受講しながら皆で勉強し合う良い機会になった。

・サポーター活動は登録数71名、年2回以上活動したサポーターは77%で、サポーター登録した人はほぼ全員が何らかの活動をしたと考えられる。

## 評価委員による評価・コメント

・中央区では（若手演奏家等を）「育てる」という意識はあるのだろうか。例えば、兵庫には、育てる気風がある。宝塚や甲子園等がある土地柄か、若い方たちのファンとなってリピーターになる層の客がついていて、皆で育てようという空気がある。（垣内）

・トリトンアーツにおける根幹事業である「ホール公演事業」及び「アウトリーチ事業」を円滑に運営していくためには、サポーターの果たす役割が非常に重要になっている。特に、夏休みの一大イベントである「オープンハウス」事業は、プロジェクトサポーターをはじめ多くの登録サポーターたちが中心となって企画・制作・運営を行っており、各コーナーではサポーターの皆さんがチームワークも良く、大変親切で素敵な笑顔で丁寧に対応しており、また自らも大いに楽しみながら取り組んでいる姿に好感が持てた。（町田）

・もっともコアな顧客となりうる登録サポーターが十分に活動できる場の提供、将来の音楽業界を担う可能性のあるインターンシップの受け入れと教育、多方面から音楽を学べるアートマネジメントに関する外部講師派遣によるワークショップ、さらに若手演奏家の活動の機会の提供だけに留まらないサポートなど、公演事業をしつつこれだけの事業を行われることは素晴らしい。（厚地）

# NPO 組織運営体制

実施内容・自己評価	評価委員による評価・コメント
<p><u>主な改訂</u></p> <p>新規</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・スタッフ総労働時間前年度比 10%削減、三半期単位で振替休日完全取得</li></ul> <p><u>実施内容・自己評価</u></p> <ol style="list-style-type: none"><li>① コンプライアンス、情報資産保護の徹底 ⇒ ○</li><li>② 働き方改革、生産性向上 ⇒ △</li><li>③ 継続的な財政基盤の充実による単年度黒字達成 ⇒ ○</li><li>④ 評価委員会との連携 ⇒ ○</li><li>⑤ 活動理解促進のためのホームページ改訂 ⇒ ×</li></ol>	<p>・支援に見合ったブランド化が出来れば十分と考えられる。(垣内)</p> <p>・運営の仕方、事業の取り組み、一つの事業に対する議論、すべてデータでも表示されているのが素晴らしいと思う。若手アーティストへの理念なども、実に素晴らしいと感じる。(厚地)</p>

# 視察報告

表記例)

## 評価委員名

[事業区分] 〈シリーズ名 もしくは コミュニティ事業区分〉

公演名 もしくは 事業名:

(コミュニティ事業の場合) 実施施設:

視察日時:

視察内容詳細

\*なお各公演内容および事業内容についての情報は、本評価事業報告書前編の事業報告書をご参照ください。

## 厚地 美香子 (認定 NPO 法人あっちこっち 理事長)

[コミュニティ事業] 〈アウトリーチ〉 ①小学校アウトリーチ

事業名: 4年生はじめてのクラシック

実施施設: 中央区立泰明小学校

視察日時: 2017年9月15日(金)

私が拝見したのは確か4年1組で学童は20名程、とてもおびおびと興味深く演奏やお話を聞き参加している様子に驚きました。以前芸術と子どもという東京の団体のスタッフの方に、概して東京の学童は横浜に比べ斜めに構えるような反応もあると聞いていましたが、拝見したクラスは純朴そのものでした。それは今までの活動の賜物かもしれません。楽器を演奏しながら入ってくる様子、子どもの近くで演奏をする様々なアプローチがあり、子どもたちは音楽にどんと惹き込まれていくようでした。アーティストと会話(発言)する機会も多く、とても積極的に臨んでいました。また第一生命ホールにも来たことがある学童や、晴海トリトンスクエアに住んでいる学童もいて地域密着になっていることも感じました。

最後に一つだけ、授業が終わる際の子どもが教室から退出するときは、アーティストが子どもたちを見送る形にする方が、もっと子どもたちの心に残るのではないかと思いました。ステージではなくアウトリーチでアーティストが関わる良さは、アーティストやそのパフォーマンスを身近に感じることだと考えております。

[ホール事業] 〈ライフサイクルコンサート〉

**公演名：子どもといっしょにクラシック**

**「音楽と絵本」コンサート『こんとあき』**

**視察日時：2017年9月24日（日）14:00**

この時は1階席の中央列左手の席で拝見しました。クラシック音楽を小さな子どもたちにじっと座って聴かせるのは、ともすると親子ともども拷問になり兼ねません。前職で音楽祭のキッズプログラム制作を担当していたので、勉強を兼ねてありとあらゆる子どものコンサートやワークショップに幼い息子と娘を連れて参加した結果、見事子どもたちはスポーツ人間になりました。それでも成人に近くなった息子の部屋でPOPSのCDの間にクラシックがあるのを見かけると何か残っているかなと思ったりしております。このコンサートでピアノを担当された小川典子さんは私が前職で担当させて頂いたアーティストでもあり、感慨深く拝聴致しました。

前半で子どもたちに聴いてもらった音楽を後半の絵本でも聴いてもらうアイデアは素晴らしく、またコンサートで使われたぬいぐるみはエグゼクティブ・プロデューサー 田中玲子さんの手作りとなりました。演奏はもちろん、お子さんたちの反応を見るのも楽しく、前半音楽だけで聴いたプログラムが「こんとあき」の絵本でまた登場する。おや？っと、気が付いたお子さんもいたことと思います。子どもは特に繰り返しの連続で覚えていたり、感じたりすることを思い出しました。同じ絵本を何度も読んでほしいとせがむように、それをコンサートのプログラムに入れるなんて！考えもしませんでした。声優の森田樹優さんの読み聞かせもさすがで、どんどんお話の世界に引き込まれる子どもたちが前のめりでとても可愛かったです。とても愛に溢れているコンサートで、中央区の子どもたちは幸せな機会を得られていると思いました。

[ホール事業] 〈ライフサイクルコンサート〉

**公演名：雄大と行く 昼の音楽さんぽ 第12回**

**川島成道 つよく優しきヴァイオリン**

**視察日時：2017年10月4日（水）11:00**

お昼間コンサートの雰囲気にとってもあっている内容で大盛況のコンサートでした。小品でまとめ、初めてのお客様でも飽きさせないようなプログラムでした。川島成道さんはとてもお話が上手でしたので、このような方のときは雄大さんが沢山解説をされるよりも、演奏者のお話を引き出すようにもっていかれたら、さらに魅力の増すコンサートになるのではないかと思います。個人的に丁度NHKのラジオ講座で川島さんのお話を聞いたばかりだったので親近感をもってコンサートにのぞめました。そのように話しているお客様もいて驚きました。ご高齢のご夫婦、数名の少し年齢が高めの女性グループがお客様に多いように拝見しました。

[ホール事業] 〈ウィークエンド・コンサート〉

**公演名：トリトン晴れた海のオーケストラ**

**晴れオケメンバーによる室内楽**

**視察日時：2017年10月7日（土）14:00**

晴れオケのメンバーの方の演奏を初めて聴きましたが、とても聴きごたえのある素晴らしいコンサートでした。素晴らしい演奏と圧倒的な集中力で惹き込まれましたが、その本格的な雰囲気に入れていないお客様もいらっしゃるようでした。「今日は難しかった。」と仰るご高齢のご夫婦やご婦人たちが話しているのを耳にしました。一体どのようなきっかけでこのコンサートを聴きにきたのかとても気になりましたが、さすがにお伺いする事も出来ず、おそらくコンサートに来たきっかけなどもアンケートにとっていらっしゃると思いますので、今度教えていただきたいです。

[ホール事業] 〈ウィークエンド・コンサート〉

**公演名：室内楽の魅力**

**白井光子&ハルトムート・ヘル リート・デュオ**

**視察日時：2017年10月28日（土）15:00**

当日、大きな曲目変更がありましたが、それに対して何かお客様が仰っている様子は見られませんでしたが。お客様は曲目を選んできたというより、圧倒的に白井光子さんのファンでいらっしゃる方が多いように見られました。白井さんのキャリアやそのうたわれる姿勢から受ける圧倒的なものを、歌曲に通じてないお客様は楽しまれているのではないかと拝見しました。色々な年代のアーティスト、また様々な分野の本格的なクラシックを入れる工夫はとても大切だと感じました。

[ホール事業]〈クアルテット・ウィークエンド〉#135

**公演名：クアルテット・エクセルシオ**

**アラウンド・モーツァルト vol.3 フィガロの結婚**

**視察日時：2018年3月11日（日）14:00**

テーマがアラウンド・モーツァルトで、前半はフンメルとモーツァルトのカルテット。フンメルは間に合わず、モーツァルトから伺いました。後半はフィガロの結婚のカルテット版の演奏。チェロの大友肇さんがモーツァルトの時代の鬘を被って登場された時には会場から、わあっという声があがりました。演奏はもちろん素晴らしく、久しぶりにオペラを聴きたくなったと思ったら、近くに座っていたご夫妻も同じような事を仰っていました。この時は2階席の中央あたりで拝聴いたしました。色々な席で拝見する事でお客様の様子が見えてくるので、可能でしたら様々な場所で席をご用意頂けると幸いです。カルテットはクラシック音楽を聴く方の中でもハードルが高いと思われているように感じます。だからこそ、色々な努力が必要ではないでしょうか。なぜモーツァルトの前にフンメルを入れたのか、曲の説明、カルテットのトリビアでも何でもちょっとした事でも良いので、奏者がお客様に語り掛ける必要を感じました。

[ホール事業]〈ウィークエンド・コンサート〉

**公演名：室内楽ホール de オペラ**

**林美智子の『フィガロ』！（1回目）**

**視察日時：2018年3月18日（日）14:00**

全アリアカット重唱版で行うフィガロは一体どんな風になるのだろうかと思っていましたが、全くその心配はなく楽しめる内容でした。特に第一生命ホールの特性を生かし、お客様のいる1階席も舞台にしている、親近感が増しているようでした。私は2階席中央で拝見していたのですが、歌手のお芝居に声をあげて反応（笑い）している方も多く、十分に楽しまれているようでした。2階席のお客様の層はさまざま、学生、サラリーマン、ご夫婦、女性のお友達同士、男性一人、女性一人、また年齢層もさまざまでした。演出の一つ、としてプロジェクターを駆使し、フィガロの相関図を大きく投影したり、コンサート終了時には、出演者が一斉に舞台上にそろって写真撮影タイムがあり、それをSNSにUPすることを施したりと情報発信を公演中にするのは初めてで驚きましたが、お客様はもっと柔軟でその状況を進んでたのしんでいるようでした。このように、フィガロを初めて聴くひとでも、何度も聴いたひとでも楽しめる演出になっていました。今後もこのように素晴らしいアーティストたちに、第一生命ホールならではの内容を提供してもらおうのが、他のホールとのすみ分けができ、新しいお客様が入って裾野を広げることにつながるのではないかと思います。

【コミュニティ事業】〈アウトリーチ〉④介護・福祉施設、病院でのアウトリーチ

事業名：マイホーム新川アウトリーチ

実施施設：中央区特別養護老人ホーム マイホーム新川

視察日時：2017年9月14日（木）

「敬老会コンサート、秋のくつろぎ音楽会」と称して1回目（13:15～13:55）は2階食堂にて40名ほどの通所者、2回目（14:30～15:00）は30名ほどの入所者を対象に、弦楽四重奏「クアルテット・セレシア」の演奏を鑑賞した（15:00の演奏のみ）。

まずは「クアルテット・セレシア」の演奏の完成度にびっくりした。得てしてアウトリーチ活動はその場限りのメンバーによるものが多く、すでに固定メンバーで活動されているクアルテットが演奏されて本物の音楽が届けられたことに、今回のアウトリーチの意義が大きいと思う。

<プログラム>

・モーツァルト：「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」より第1楽章

弦楽四重奏の代表的な作品で誰しもは聞いたことのある名曲をはじめに演奏したことは、導入としては入所者の方々の興味をひくことに大成功であった。メロディーを口ずさむ方もいて和やかに始まった。

・ハイドン：弦楽四重奏第77番ハ長調 Op.76-3「皇帝」より第2楽章

ドイツ国歌で有名な曲で各パートが順番にメロディーを演奏するため、各楽器の音色とカルテットのしくみが紹介できたので良かった。

・秋の歌メドレー（日本）

みなさんが口ずさみ、日本の唱歌を懐かしみ楽しんで参加できたのが嬉しそうだった。田舎を思いだした方もいらっしまったのでは、近くの方は涙していた。

・ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第9番ハ長調 Op.59-3「ラズモフスキー第3番」より第4楽章

最後にラズモフスキーをもってくるあたりが、このカルテットの本気度の表れだと思う。

テンポが速く大曲で難曲であるが、息の合ったアンサンブルであった。

アンコールは「ふるさと」をヴァイオリンの方が皆さんの前まで歩みよって語りかけるように演奏していた。ベッドに横になっている方もいたが、大変に喜ばれていた。30分強の演奏時間は丁度よく、練られた曲目も感心した。またセレシアの皆さんには参加して頂きたいと思った。

[ホール事業]〈ウィークエンド・コンサート〉

**公演名：トリトン晴れた海のオーケストラ**

**晴れオケメンバーによる室内楽**

**視察日時：2017年10月7日（土）14:00**

今回は、ベートーヴェンの七重奏とシューベルト弦楽五重奏で、晴れオケメンバーによる演奏。響きのよいホールでの室内楽は格別であることを実感する。晴れオケメンバーは、トリトンアーツの舞台鑑賞活動の中心的芸術グループのひとつであろうと思われるが、演奏のクオリティも高く、固定ファンがしっかりとついていると想定される。観客層は比較的年齢層が高いものの、室内楽ファンを中心とする人々と見受けられた。車いすや盲導犬を連れた観客もいて、バリアフリーの重要性を改めて認識した。観客満足度の高い上演と思われるものの、満席とはなっていない点、残念である。

ベートーヴェン：七重奏曲 変ホ長調 Op.20

矢部達哉（ヴァイオリン） 篠崎友美（ヴィオラ） 山本裕康（チェロ） 池松宏（コントラバス）

三界秀実（クラリネット） 岡本正之（ファゴット） 西條貴人（ホルン）

シューベルト：弦楽五重奏曲 ハ長調 D956

矢部達哉（第1ヴァイオリン） 松浦奈々（第2ヴァイオリン） 篠崎友美（ヴィオラ）

山本裕康（第1チェロ） 原田禎夫（第2チェロ／ゲスト）

[ホール事業]〈ウィークエンド・コンサート〉

**公演名：室内楽ホール de オペラ**

**林美智子の『フィガロ』！（1回目）**

**視察日時：2018年3月18日（日）14:00**

今回は、モーツァルトの人気オペラ、フィガロである。ホールオペラなので、伴奏はピアノだけ、舞台装置は基本ない、というシンプルなスタイル。日本語でわかりやすく、かつエスプリを交えてストーリーを説明しながらの公演は、音響のよいホールにおいて、非常によくできた上質で大人の舞台に仕上がったと思う。また、客席も使った演出も一体感が出てよいと思う。演出、脚本ともによくできていた。最後に舞台の写真撮影を呼びかける試みも評価できる。観客によるインスタグラムなど口コミ普及につながるとされる（ただ、私も撮って見ましたが、さほど写真映えする感じではないかもしれません）。日曜日のマチネだったが、観客はやはり中高年層がボリュームゾーンと思われる。観客は上演後、ほとんどが駅直直、近隣の飲食などは少ないように見受けられる点は残念である。

[ホール事業] 〈ウィークエンド・コンサート〉

公演名：トリトン晴れた海のオーケストラ

第3回演奏会

視察日時：2017年11月11日（土）14:00

#### <公演の感想>

当日は曇りがちで寒い日でした。第一生命ホールに早めに着きましたが、開場前の入口付近にはもうお客様が集まっていました。「晴れた海のオーケストラ」が根付いてきていて、一定の固定ファンができていると感じました。

矢部達哉さんが率いるオーケストラの演奏はフレッシュな中に抜群の安定感があり、モーツァルトを楽しく聴くことができました。選曲もよく考えられていると思いました。

少し気になったのは、どのクラシックの演奏会に行っても同じ傾向ですが、来場者の方々の年齢層が高めなこと、若い方がいても音大に行っているのではという感じになってしまっている気がしました。

#### <事業全般への感想>

クラシック演奏と聴衆との間の垣根を低くしてより親しんでもらい、気軽に楽しんでもらうための方策は既にいろいろ実施してくださっていると思います。地道な活動を継続してくださっているトリトン・アーツ・ネットワークだからこそ、ぜひ演奏会、ロビーコンサート、アウトリーチ活動などが次世代、地域に拡がり循環して行く姿（循環図）を示して、全国の好事例モデルになっていただくことを期待しています。

[ホール事業]〈クアルテット・ウィークエンド〉#130

公演名：2016年ボルドー国際弦楽四重奏コンクール優勝ツアー

アキロン・クアルテット

視察日時：2017年6月4日（日）14:00

● 2011年パリ国立高等音楽院在学中に若手フランス人女性4人により結成され、2016年5月開催の第8回ボルドー国際弦楽四重奏コンクールで審査員の満場一致により優勝したため、今回はその優勝記念ツアーの一環として翌年の6月に初来日したとのこと。

● 今回の演奏会の曲目のプログラムが、母国の作曲家であるデュティユーとドビュッシーの弦楽四重奏曲、そしてコンクールでも評価の高かったモーツァルト作曲の弦楽四重奏曲であったため、若い個性的な顔立ちの美人4人組による「色彩感あふれる演奏」（トリトンアーツ通信 Vol.159）を大変楽しみにして、当日第一生命ホールに足を運んだ。

● 本公演は、2017年6月に第一生命ホールで開催された「ボルドー国際弦楽四重奏コンクール優勝記念」3回シリーズの第一弾である。

演奏レベルは非常に高く、エレガントな若いパリジェンヌ4人のイメージからは想像できないよう力強い、躍動感あふれる演奏であった。後半のドビュッシーは、色彩豊かで研ぎ澄まされた繊細な演奏で特に素晴らしかった。今後の活躍が楽しみな若いクアルテットである。

室内楽の観客は、50～70代の男性客が多いが、アキロン・クアルテットは超難関とされている「ボルドー国際弦楽四重奏コンクール」に審査員の満場一致により2016年度優勝され、今後世界的な活躍が注目されている若手の弦楽四重奏団なので、ヤング券（一般の入場料より安い値段）などを積極的にPRして10～20代の若い観客層を増やしていくことに期待したい。なお、チケット料金は、コンクール優勝直後の若い団体であったことから「一般 4,000円（通常5,000円）、シニア 3,500円（通常4,500円）、ヤング 1,500円」と通常の基準より安く設定しているので、同じくボルドー国際弦楽四重奏コンクール優勝記念の一環だった「シューマン・クアルテット」以上の入場者数を確保したいところであった。

公演名：シューマン・クアルテットⅡ（全2回）

視察日時：2017年6月17日（土）14:00 [2回目]

● 2013年に最難関といわれる「ボルドー国際弦楽四重奏コンクール」での優勝を機に世界中の名門ホールで公演を重ね、今や若手弦楽四重奏団の中で大変注目を浴びているとのこと。【全員30代前半～半ば、第1・第2ヴァイオリン及びチェロは三人兄弟＝ドイツの父親と日本人の母親による家庭＝、ヴィオラは30代初めの女性】

● 上記コンクール優勝の翌年に来日し、2014年11月30日（日）午後2時から第一生命ホールでコンサートを開催したところ、「若い演奏家ながら、曲に対する理解や作品づくりには緻密なものがあり、聴衆はもちろん、評論家や関係者からも非常に大きな称賛をいただいた。数年後に、ぜひまた紹介したい、今後の可能性が大いに期待されるクアルテット」と大変高い評価であった。（「事業報告書2014」p.17参照）当時、私も来場し、若手実力派にふさわしい透明感の素晴らしい演奏に触れて大満足であった。

● 今回は、約2年半ぶりの再来日であり、音響効果の極めて高い第一生命ホールで高品質の室内楽を体感するため、期待感を抱いて2回目の上記公演日に私は伺った。期待どおりの緻密で研ぎ澄まされた素晴らしい演奏に触れて、今回も大満足であった。特に後半のベートーヴェンの弦楽四重奏曲は、軽快で活力に満ちた魅力あふれる美しい演奏であった。

● しかしながら、今回の2公演は、第一生命ホールに初登場した公演（2014年（平成26年）11月30日）と比べ、入場者数（1回目：▲45名，▲11.5%、2回目：▲124名，▲31.6%）などが少なくなっている。室内楽の観客は、50～70代の男性客が多いが、シューマン・クアルテットは若手の世界で活躍している弦楽四重奏団なので、若い聴衆育成の観点からも、ヤング券などを積極的にPRして20～30代の若い観客層を増やしていく取組に期待したい。なお、チケット料金を比べると、今回の「一般：5,000円、シニア：4,500円、ヤング：1,500円」は、初来日（2014年）時の「一般 4,000円、シニア 3,000円、ヤング 1,500円」よりも、一般及びシニアの区分で高くなっているが、このことが入場者数にどの程度の影響を与えているのであろうか。

事業名：第一生命ホール オープンハウス 2017

実施施設：第一生命ホール

視察日時：2017年7月22日（土）12:00

このイベントの目的は、「近隣地域で増加する、特にファミリー層をメインターゲットとして、これまでホールに来たことのない方に身近に素晴らしいホールがあり、音楽を楽しめることを知ってもらい、通常のコンサートにも来場してもらおうきっかけとする」としている。年に一度、第一生命ホールを中心に無料開放し、未就学児から小学校低学年の子どもを持つ家族連れを中心に音楽を楽しむホールを身近な存在に感じてもらうために、プロジェクトサポーターをはじめ多くの登録サポーターたちを中心に企画・制作・運営が行われている。

しかしながら、下記のとおり入場者数が、1,000人に達していない。前年と比べて7.5%増加しているが、上記の目的に踏まえ、若年層の人口が増加している中央区の状況（特にトリトンスクエアの近隣地域では顕著）や東京都をはじめ中央区・中央区教育委員会が後援しているイベントであることを考慮すると、入場者数1,000人以上を目指して検討を進めてほしい。平成25・26年度は1,000人を超えており、大変楽しいイベントで、家族で参加して損はしないので、今後より多くの方々が入場されることを期待したい。

H29 | 816名参加（H28に比べ 57名増 7.51%増、H26に比べ▲496名減 ▲37.8%減）  
H28 | 632名参加（H27に比べ ▲55名減 ▲8.0%減、H26に比べ▲680名減 ▲51.8%減）  
H27 | 687名参加（H26に比べ▲625名減 ▲47.6%減）  
H26 | 1,312名参加  
H25 | 1,267名参加

プログラムの内容を見ると、私も昨年に引き続いて参加させていただいたが、今回は前回と異なり、晴海トリトンスクエア2階グランドロビーで「ダックスくんらっぱの合奏団によるファミリーコンサート」を開催しており、まず第一生命ホールへエスカレーターで昇る「表玄関」で出迎える仕組みになっていたのも、4階のホール「オープンハウス2017」へと誘導するきっかけにつながっていたのではないかと。

また、私も楽しみながら参加させていただいた「フルーツはじめて体験」をはじめ「弦楽器をさわってみよう！」や「バックステージツアー」「裏方の仕事をみてみよう」「音楽の実験室」「舞台の上で歌ってみよう！『好きですトリトン！』」「音楽クイズラリー」など参加・体験型のコーナーが多く、子どもたちは勿論のこと保護者の方もとても楽しく参加されて家族皆さんが大変喜んでいただけた。

これも、企画や準備の段階から総力を挙げて熱心に取り組まれてきたサポーターの皆さんの英知の結集とご尽力の成果によるものであると、心から感謝している。

当日も、各コーナーでサポーターの皆さんがチームワークも良く、大変親切で笑顔で丁寧に対応しており、また自らも大いに楽しみながら取り組んでいる姿に好感が持てた。

今回特に印象に残ったことは、ホールでの大変楽しい「中川賢一 ピアノの魔法！コンサート」に引き続き「大森智子&中川賢一 ソプラノコンサート」が開催予定であったが、大森さんの休演に伴い、急きょ「ダックスくんらっぱの合奏団」が代演されることになり、その後のご自分たちのグランドロビーでの公演時間も含めると負担増となったが、メンバーのトークも面白く大変楽しいコンサートであったことに感謝したい。

さらに、フィナーレの「みんなで歌おう！」では、「音楽・晴海・第一生命ホール」をテーマにしたイメージソング「好きですトリトン！」を公募した歌詞に乗せて、本邦初公開の歌詞付き曲としてオールキャストで演奏し、観客の皆さんと合唱したが、さびの部分以外はなじみがないためか、会場内の盛り上がりには欠けていたようだった。今後、さまざまな機会を通じて是非普及を図って定着するよう努めていただきたい。

[ホール事業] <ライフサイクルコンサート>

公演名：子どもといっしょにクラシック

「音楽と絵本」コンサート『こんとあき』

視察日時：2017年9月24日（日）14:00

4歳以上の子どもが家族連れで気軽に、絵本と音楽を一緒に楽しめるコンサートであり、中央区の人口構成が30～40代のファミリー層を中心としていることもあり、チケットが完売となっている。

第1部は、ピアニストの小川典子さんによるいろいろな楽器の紹介と、音色を聴いて楽しんでもらい、その後比較的なじみの曲をピアノ五重奏や弦楽四重奏で演奏して、音楽の楽しさを体感してもらう企画であったが、曲目の中に小さな子どもには馴染みのない、難しいものがあった。そのため、小川さんのお話と併せて、保護者の方が隣席のお子さんに分かりやすく説明を加えていかれるとお子さんの関心も深まるのではないかと感じた。小川さんのピアノ演奏をはじめ弦楽四重奏の演奏レベルは高いように思えた。第2部は、質の高い音楽とともに、とても馴染みある絵本であり、ほんわかと暖かみのある物語となっており、物語の展開と音楽がマッチしていて、楽しく絵本を観て、音楽を聴くことができた。

なお、帰り道、トリトンの2階グランドロビーで小さなお子様のいるご家族が「また来年も来ようね」とお子様に話している姿を見かけ、とても微笑ましく、温かい気持ちで帰宅した。このように家族連れで楽しんだお子様が、今後成長しながらも、継続して第一生命ホールに足を運んでもらえるような、魅力あるプログラムの編成を期待したい。

[ホール事業] 〈ライフサイクルコンサート〉

公演名：645 コンサート～充電の60分～

新・純邦楽ユニット WASABI

視察日時：2017年9月27日（水）18:45

津軽三味線の吉田兄弟として活躍している兄（吉田良一郎）が結成したグループで注目を浴びているため、個人的には昨年本田雅人によるビッグバンドと同様に大変楽しみにしていた公演であった。

WASABI のグループはそれぞれ実力とタレント性により、その魅力に惹かれてクラシック音楽にはあまり馴染みのないサラリーマンが仕事帰りに気軽に立ち寄って、リフレッシュして帰宅してもらうには十分過ぎるほどの濃い内容で、一般のコンサートより時間は短いが大変充実したコンサートであった。1階席はかなり埋まっていたように思う。

予想どおり迫力あふれる、感動的な演奏であり、従来の邦楽のイメージとはかけ離れた情熱的な臨場感のある素晴らしい演奏で大いに楽しめた。

なお、演奏プログラムの途中に楽器体験コーナーが設けられ、観客の有志（6人）がステージに上がって即興演奏する企画となっていたが、事前に指名（抽選）されていたので、時間はかからなかったが、その場で希望者の中から抽選して当選した観客がステージに上がり楽器体験した方が、会場は盛り上がったのではないかと（1時間という短い公演時間の中で少人数しか楽しめないのも、賛否はあるかも？→個人的には、その分 WASABI の迫力あふれる演奏を聴きたかった）。

[ホール事業] 〈ウィークエンド・コンサート〉

公演名：トリトン晴れた海のオーケストラ

晴れオケメンバーによる室内楽

視察日時：2017年10月7日（土）14:00

● 晴れオケメンバーによる室内楽の演奏は、当初、平成27年度及び28年度において、当該年度に行う第一生命ホールでの演奏会をPRし入場者数を増やすこと等のため、晴海トリトンスクエア 2階グラウンドロビーで弦楽四重奏（ヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロ）を行っており、いずれの回も演奏会に行ってみたくなるような大変素晴らしい演奏であった。

（1）平成27年5月19日（火）夕方2回公演（①18:00～18:30、②19:00～19:30）

受益者数：合計399名

演奏曲：①モーツァルト：セレナード「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」（第1・2楽章）

②チャイコフスキー：弦楽四重奏曲第1番（第2楽章）

③モーツァルト：ディヴェルティメント（第1楽章）

(2) 平成 28 年 7 月 13 日 (水) 夕方 1 回公演 (18:10~18:50)

受益者数：合計 173 名 (28 年度実施の受益者数では、合計 6 回開催中、200 名を超えている公演が 4 回)

演奏曲：①モーツァルト：セレナード「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」

②ポロディン：弦楽四重奏曲第 2 番 (第 3 楽章)

③モーツァルト：ディヴェルティメント (第 2 楽章)

● 観客の年齢層を見ると、「ヤング券」購入枚数が「17 枚」と、11 月 11 日公演のトリトン晴れた海のオーケストラ「第 3 回演奏会」(以下「第 3 回演奏会」という。)のとき (35 枚)の半分程度となっており、他の室内楽の演奏会と同様に若い世代が少ない。

また、達成率、一般充足率及び全体充足率のいずれも、第 3 回演奏会と比べると低い。

(1) 達成率：室内楽 66.0% ⇒ 第 3 回演奏会 94.0%

(目標購入者数：室内楽 420 ⇒ 第 3 回演奏会 450)

(注)当初から室内楽の達成率は第 3 回演奏会よりやや低めとなっている。)

(2) 一般充足率：室内楽 33.1% ⇒ 第 3 回演奏会 57.8%

(一般入場者数：室内楽 251 ⇒ 第 3 回演奏会 408)

(3) 全体充足率：室内楽 46.5% ⇒ 第 3 回演奏会 82.6%

(招待入場者数：室内楽 102 ⇒ 第 3 回演奏会 175)

(合計入場者数計：室内楽 353 ⇒ 第 3 回演奏会 583)

<入場可能席数：室内楽 756、第 3 回演奏会 706>

● 「晴れオケ」の首席奏者と世界の舞台で名演奏を多数残している世界的なチェロ演奏者を迎えての大変贅沢な演奏会であり、各演奏者の緻密な音色と第一生命ホールの素晴らしい音響効果と相まって感動的な心に響く演奏会であった。このように大変素晴らしい演奏会であったために、観客数が少なかったことは誠に残念であった。第 3 回演奏会と公演時期と近かったことやあまり差異がない入場料金、グランドロビーコンサートが無かったこと、その他 PR 不足などが原因であったのだろうか。今年度は、「晴れオケ」のベートーヴェン・チクルスによる演奏会であり、室内楽コンサートの公演はないので、特に検証の必要はないと思うが、もし可能であればこれまでのような室内楽メンバーによるロビーコンサートを検討されてはいかがだろうか。

● 今後、晴れオケメンバーによる室内楽の演奏を、小・中学校のアウトリーチで行っていただくことを期待する。昨年度は、中央区立日本橋中学校に東京都交響楽団メンバーが、中央区立晴海中学校にベルリンフィルのメンバーが来校し、コンサートを実施している。特に「晴れオケ」のコンサートマスターである矢部達哉さんは、現在都響のソロ・コンサートマスターに就任しているので、「晴れオケ」の賛同いただける仲間と一緒に地元区の中学校へのアウトリーチの道を開いていただけることを期待している。

[ホール事業] 〈ウィークエンド・コンサート〉

公演名：室内楽の魅力

白井光子&ハルトムート・ヘル リート・デュオ

視察日時：2017年10月28日（土）15:00

中央区が主催する「中央区民カレッジ」<まなびのコース（連携講座）>の中に、「歌の翼に」を歌う体験つきで楽しむ、クラシック音楽講座「ドイツ歌曲（リート）の奥深い世界へ」と題する講座（全4回。9月9日～10月28日）があり、その最終回に世界最高峰のリート・デュオ「白井光子&ハルトムート・ヘル」公演を楽しむプログラムが組まれている。この講座の定員は40名であるが、そのうち38名もの受講生が最終回の公演を鑑賞（希望制。チケット代は自己負担）していることは、誠に素晴らしい。

また、「トリトンアーツ通信」(Vol.164)のインタビューによると、白井さんは今年古希を迎えての公演ということで、音響効果抜群の「第一生命ホール」の大きさに適したコンサートであったように思う。白井さんとヘルさんが創りだすリート・デュオの世界は心に響く大変魅力的なものであり、至宝の時間を享受した。年齢を重ねたからこそ創りだすことができる「いぶし銀」のメゾソプラノの音色に知的興奮を受けた歌曲もあった。ただ、ご本人の希望により当日曲目を一部変更していたが、その理由は明確には説明なされていなかったと記憶している。

なお、ヤング券により20名の入場実績は、公演内容を考慮すると健闘していると思う。

[ホール事業] 〈ウィークエンド・コンサート〉

公演名：トリトン晴れた海のオーケストラ

第3回演奏会

視察日時：2017年11月11日（土）14:00

● 「晴れオケ」は、トリトン・アーツ・ネットワーク創立15周年に向けて、第一生命ホールの音響を生かした室内オーケストラとして矢部達哉さんを中心に2015年に結成されている。

● 観客は、全体的には40代以上が中心となっている。若い世代の観客の推移を見ると、「ヤング券」購入枚数が「H27 24枚⇒H28 54枚⇒H29 35枚」となっており、第2回目の公演では「クラリネット奏者」をソリストに招いての協奏曲に取り組んだ結果、初回と比べ、2倍以上（H28 54枚）に伸びて若い世代の観客が増加していたところである。しかしながら、第3回目の今回の公演では▲35.2%と大幅に減少している。今や「晴れオケ」はトリトン・アーツ・ネットワークの看板オーケストラとなっており、今後ホール事業等を一層充実発展させていくためにも、より多くの若い世代を取り込んでいくための方策などについても検討していきたい。

なお、達成率、一般充足率及び全体充足率の推移を見ると、次のとおりの状況となっており、前年度と比べ、全体の入場者数は増加（23名増、4.1%増）しているものの、入場券収入に直結している「一般入場者数」は▲38名（▲8.5%）となっており、今後の一般入場者数の増加にも期待したい。

（1）達成率：H27 | 125.1% ⇒ H28 | 89.1% ⇒ H29 | 94.0%

（目標購入者数：H27 | 370名 ⇒ H28 | 530名 ⇒ H29 | 450名）

（注）達成率は4.9ポイント増だが、目標購入者数は▲80名（▲15.1%）となっている。

（2）一般充足率：H27 | 58.2% ⇒ H28 | 63.2% ⇒ H29 | 57.8%

（一般入場者数：H27 | 438名 ⇒ H28 | 446名 ⇒ H29 | 408名）

（3）全体充足率：H27 | 94% ⇒ H28 | 79.3% ⇒ H29 | 82.6%

（招待入場者数：H27 | 270名 ⇒ H28 | 114名 ⇒ H29 | 175名）

（合計入場者数：H27 | 708名 ⇒ H28 | 560名 ⇒ H29 | 583名）

<入場可能席数：706>

● 今や、トリトン・アーツ・ネットワークの看板公演となっている「トリトン晴れた海のオーケストラ」のコンサートは、指揮者なしで、オーケストラの首席クラスのレベルの高い演奏者一人ひとりがコンサートマスターの矢部達哉さんの下に、呼吸を合わせながら丁寧に音楽をつくりあげており、その研ぎ澄まされた緻密な音色は、「音響効果抜群の第一生命ホール」に優しく響きわたり、多くの観客に至福の時間をもたらしているに違いないはずである。

また、音楽雑誌にも演奏を絶賛されている（音楽の友2月号のベストテン2017）ため、今後、これをバネにしてさらに影響力のあるマスコミ（TV・日刊紙など）を通じて積極的にPRしていただきたい。

● 2016年度は、中央区開催の「中央区民カレッジ クラシック入門講座」の中で、「晴れオケ」公演前日の「リハーサル」見学を設けたことは、受講生にとって大変貴重な機会となり、入場券の販売増にもつながった企画であった。

また、「晴れオケ」メンバーでのロビーコンサート（平成28年7月13日（水）夕方）も10月30日の第2回演奏会のPRに効果があった（終演後に14枚販売実績あり）。

そこで、平成28年度まで晴海トリトンスクエア2階のグランドロビーで開催されてきた「ロビーコンサート」が昨年度廃止になってしまったが、以前のように「室内楽メンバー」によりグランドロビーでのコンサートも定期的に行っていただけると、「わが街のシンボリックな室内楽オーケストラ」として区民等に一層親近感を持って迎えられないのではないだろうか。

さらに、「晴れオケ」有志による室内楽メンバーが小中学校や高等学校へのアウトリーチに出演されたり、「晴れオケ」が「第一生命ホール」を会場とする「小中学校の合同音楽会」にゲスト出演されたり、またそれらの事業をサポート陣も支えていく体制を組むことができると、より一層「地域に愛されるオーケストラ」に近づくのではないだろうか。

[ホール事業] 〈ライフサイクルコンサート〉

**公演名：子どもといっしょにクラシック**

**クリスマス・オーケストラ・コンサート**

**視察日時：2017年12月10日（日）16：00 [2回目]**

30～40代が中央区の人口構成全体の中心を占めており、未就学時の子どもたちが未だ増えている状況から、気軽に小さなお子様のいるファミリー層に大変人気のあるコンサート（子どもの年齢層では4歳から6歳までが中心）の一つである。

こうしたことから曲目も小さなお子様のいるファミリー層にふさわしいものとなっており、アルクス（オーケストラ）のメンバーによる進行や解説も子どもたちにも分かりやすく楽しく聞くことができた。

また、子どもたちがステージ上で歌ったり、最後に「きよしこの夜」を会場の観客と一緒に歌う参加型の方法も良かったと思う。

特に印象的だったのは、アルクス（オーケストラ）のメンバーが、NHK交響楽団等全国の在京オーケストラの若手奏者たち（その中に、チェロの海野幹雄さんも参加していた）が中心となって、指揮者を置かず、質のかなり高い演奏を提供しており、これで入場料が大人2,000円、子供1,000円はかなりお得感がある。音響効果の良い、身近にある「ホール」で、質がかなり高いコンサートを、4歳の時から家族連れで大変安い値段で鑑賞することができる「区民」は、うらやましい限りである。

さらに、今回は、中央区と中央区文化・国際交流振興協会共催によるイベント（第10回中央区まるごとミュージアム、平成29年10月29日開催）の協賛品として本公演のチケットを提供していただいており、イベントの参加者に少しでも第一生命ホールを知ってもらえることを期待している。

なお、プログラムの裏面には、「保護者のみなさまへのお願い」として、「お子さまが泣いたり、騒いでしまうようでしたら、周りのお客様のご迷惑にならないよう、曲と曲の間に、お近くの扉からそっと出ていただけるようお願いいたします」と記載されている。折角の機会であるため、子どもたちが集中できるプログラムの内容にするための工夫などを期待する（周りの観客に迷惑を掛けるような状況であるならば、退場が必ずしも「曲と曲の間」でなくてもよいと思うが?）。

**事業名：4年生はじめてのクラシック**

**実施施設：中央区立明正小学校**

**視察日時：2018年1月30日（火）**

昨年度と同様に茅場町駅近くにある上記小学校の4年生（児童39名）を対象に、同校3階にある「さほど広くない音楽室」で、「TANBRASS（金管五重奏+打楽器）」によるアウトリーチ（60分間）を見学した。同校では6年生の全員が金管楽器を経験するため、学校側の依頼により、「TANBRASS」によるアウトリーチを毎年実施されているようである。

このため同校に慣れ親しんでいると思われる「TANBRASS」の若い皆さんたちが毎年趣向を凝らした企画を考えて、児童たちに様々な分野の音楽に関心を持ってもらい、飽きさせないように演出やMCにもアイデアを練り、工夫して児童たちに楽しんでもらっていた。具体的には、今回は「TANBRASSと音楽世界旅行！」をテーマに、ハンドメイドの世界地図を使って国の場所を示しながら、①イギリス（ヘンデル：水上の音楽）、②ドイツ（バッハ：主よ人の望みの喜びよ）、③ロシア（チャイコフスキー：白鳥の湖より「情景」）、④イタリア（ヴェルディ：アイダより「凱旋行進曲」）、⑤フランス（ドビュッシー：亜麻色の髪の乙女）、⑥スペイン（ビゼー：カルメンよりアラゴネーズ）、⑦日本（童謡：三太郎メドレー）、⑧アメリカ（ジャズ：ルイ・プリマ「シング・シング・シング」）、⑨アンコール：アメリカ民謡「リパブリック讃歌」（予め想定されている。）と、さまざまな国の幅広いジャンルの音楽を自分たちも楽しそうに演奏していた。（ちなみに去年は、「金管楽器で音楽の歴史を辿ってみよう！」であった）。曲目も馴染みのあるものを選曲されたようで、上記ドイツ及びアメリカの曲は、既に音楽の時間に聴いているようで、集中して楽しく聴いていた。また、すぐ目の前で児童たちと若いプロの演奏家たちがやさしく親しみのある話し方でコミュニケーションを取りながら、素晴らしい楽器の響きを聴かせていると、目を輝かせている子どもも多く、子どもたちのハートをわしづかみにしていた。さらに、子どもたちが参加しての実践（体験）編として、金管楽器を演奏するときの「唇」の使い方から始まって、既に音楽の授業で児童たちに配られている「マウスピース」を使って、「TANBRASS」のメンバーから金管楽器の演奏方法を教えてもらい、実際に音が出るときの驚きと同時に喜んでいる児童たちの顔が印象的であった。このように内容の濃い1時間であったため、これをきっかけに吹奏楽に興味を抱き、将来吹奏楽部のクラブ活動に参加される児童が一人でも多くいることを期待したい。

また、アウトリーチを体験した児童及び保護者を主な対象に、小学校と連携を図りながら、「音楽の楽しさにもっと触れてみたい」と思った児童たちを「第一生命ホール」に足を運んでもらう「呼び水」として、例えば「東京交響楽団 & サントリーホール『こども定期演奏会』」（<http://www.codomoteiki.net/about/>）のような、一流のオーケストラ（「晴れオケ」）による子どもたちのためのコンサートを第一生命ホールで開催し、馴染みのある曲を目の前で、生で聴く音楽の迫力と素晴らしさをご家族で体験していただくことはいかがだろうか。

[ホール事業]〈ライフサイクルコンサート〉

公演名：子どもといっしょにクラシック

子育て支援コンサート『ぼくはほしのこ』

視察日時：2018年3月10日（土）14:00

〈ライフサイクルコンサート〉シリーズとして、～子どもといっしょにクラシック～カテゴリーでは、①「音楽と絵本」コンサート（4歳以上）、②クリスマス・オーケストラ・コンサート（4歳以上。2回開催）、③子育て支援コンサート（4歳以上）、④ロビーでよちよちコンサート（6箇月～3歳の乳幼児。2回開催）の構成となっており、本公演はその中の一つである。中央区の人口構成をみると、30～40代のファミリー層が中心を占めており、未就学児が増加傾向にある状況の中で、本公演以外の上記①、②及び④のコンサートはいずれも完売となっている。

乳幼児がいる子育て中の保護者向けに、第1部では小学1年生以上の子どもと保護者の方は、高木綾子さんのフルート演奏をホールで楽しんでもらい、一方4～6歳の未就学児にはスタジオの中で年齢に応じて、目の前で金管楽器を見て演奏を聴いて楽しんでもらうプログラムとなっている。

第2部は、ホールの客席で親子が一緒になり、まず高木さんのMCにより楽器と演奏者の紹介があり、その後、朗読者の中山秀征さんが登場し、金管楽器を中心とする演奏を聴きながら絵本を楽しむ構成となっている。

普段のコンサートと異なり、ホールと少し離れているスタジオでの演奏が同時並行で行われ、それも未就学児童は年齢に応じて金管楽器も異なるなどきめ細やかな対応をしていることから、演奏者・スタッフ・サポーターなどによる密接な連携が必要となるため、事前準備がかなり大変だったのではないかと推測される。このように主催者側でもスタッフなど人員体制を増やし、より大きなパワーを使用してきめ細やかなプログラムを組んでいる素晴らしい企画なので、他のコンサートと同様に「完売」にして欲しいものである。

第1部のホールでのコンサートを聴かせていただいたが、透明感のある高木さんのフルートの演奏は迫力のあるピアノの伴奏と相まって素晴らしい内容であった。子どもたちの心に響く演奏を提供していただくと、自然と引き込まれ集中して聴いているのではないかと思う。

上記の①～④の一連のコンサートに来場した子どもたちが、どのような影響を受け、第一生命ホールとの関わりをもっていられるのか、追跡調査ができると、どのような結果が得られるのか興味深いものがある。

なお、第2部での「音楽と絵本」については、自らもお子様を育てている高木さんが選択した絵本「ぼくはほしのこ」（作：志茂田 景樹、絵：柴崎 るり子）を使用し、演奏曲も絵本の内容に対応したものを選曲されているとのことであった。

また、折角、子どもたちや保護者にも人気のあるタレントの「中山秀征」さんが出演したので、朗読だけではなく、「トーク」の時間も設け、「生声」も聴きたかった。

[ホール事業]〈クアルテット・ウィークエンド〉

公演名：クアルテット・エクセルシオ

アラウンド・モーツァルト vol.3 フィガロの結婚

視察日時：2018年3月11日（日）14:00

● 公演プログラムによると、「クアルテット・エクセルシオ」は、桐朋学園大学在学中の1994年に結成され、年間70公演以上を行う日本では稀有な常設の弦楽四重奏団としてこれまで幅広く活動され、2015年（3月15日）に第一生命ホールで結成20周年記念コンサートとして4人の素晴らしいゲスト（ピアノ：小坂圭太、ヴィオラ：柳瀬省太、チェロ：遠藤真理、コントラバス：石川滋）を迎え、華やかな演奏を披露していた。また、これまで販売されている多数のCDの中にはレコード芸術誌で「特選盤」や「準特選盤」に推奨されているものもあり、高い評価を得ている。

● 「クアルテット・エクセルシオ」の公演は、2016年（3月13日）から「アラウンド・モーツァルト」と題してシリーズでモーツァルト中心の曲に取り組んでおり、2回目の昨年の公演（2017年3月12日。出演者や演奏曲などは「事業報告書2016」p.18参照）を2018年3月11日の公演と比べると、次のように入場者数（▲189名、▲39.0%）などがかなり落ち込んでいる。

(1) 達成率：H28 | 120.3% ⇒ H29 77.5%

目標購入者数：H28 | 300名 ⇒ H29 | 80名

購入者数：H28 | 361名 ⇒ H29 | 17名

(2) 一般充足率：H28 | 44.5% ⇒ H29 | 27.1%

一般入場者数：H28 | 388名 ⇒ H29 | 206名

ヤング券購入(来場)者数：H28 | 20名 ⇒ H29 | 6名

(3) 全体充足率：H28 | 63.9% ⇒ H29 | 39.0%

招待入場者数：H28 | 147名 ⇒ H29 | 90名

合計入場者数：H28 | 485名 ⇒ H29 | 296名 <入場可能席数：759>

その原因の一つとして、今回、歌劇「フィガロの結婚」（弦楽四重奏版）の演奏を後半のプログラムに組んだことによる影響はないだろうか。次週の3月18日（日）に「室内楽ホール de オペラ～林美智子の『フィガロ』！」（2回公演 479名+507名入場）の公演が控えているので、かぶってしまったことによる影響が気になったところであった。

特に「ヤング券」（小学生以上、25歳以下）の購入数を比べると、平成28年度公演「クアルテット・エクセルシオ～アラウンド・モーツァルト vol.2」では20枚購入（販売）しているにもかかわらず、平成29年度には大幅に減少（6枚⇒▲14枚減）している。

今後、より多くのヤング層を取り込むための検討に期待したい。

● 演奏は、「クアルテット・エクセルシオ」ならではの芸術的な深みがある洗練された演奏で迫力があり、心に響いてくる大変素晴らしい内容であったかと思う。是非、大勢の方々に聴いていただきたいかったコンサートであった。来年の公演に期待したい。

なお、チェロの大友肇さんが後半の「フィガロの結婚」の演奏の際、モーツァルト時代の鬘で扮装していたが、仲よし4人組なので女性陣も何かサプライズを見せて欲しかった。

[コミュニティ事業]〈その他コミュニティ活動〉

**事業名：VOCA展 25周年記念コンサート「美術館で聴くこどものためのクラシック」**

**実施施設：上野の森美術館**

**視察日時：2018年3月17日（土）**

第一生命保険株式会社の顧客（42組の親子が来場）を対象に、上野の森美術館1階展示室で午後6時（一般来場者が退館後）から「Quartet MIYABI」（ヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロの弦楽四重奏）の演奏などイベント（約40分）が開催された。

美術館でのクラシック演奏会は、2017年7月18日に東京都美術館で上記演奏者が実施（「ボストン美術館展」内覧会・招待客（約1,000人）を対象）されている。（未見学）  
都内を見ると、最近では、国立西洋美術館、東京国立博物館、国立科学博物館等でもクラシック音楽の演奏会を開催している。

かなり広い展示室にこの演奏会のためイスをセットし、子どもたちはまとまって前方に、保護者たちは後方のエリアに着席して（一部保護者は立ち見）演奏を聴いていた。

「Quartet MIYABI」メンバーのMCによる楽器ごとの実演や弦楽四重奏による曲の仕組み、演奏曲目などを紹介し、下記①～⑥の曲目を演奏していた。

①きらきら星行進曲、②アンダーソン：ワルツィング・キャット、③シュトラウス：ピチカートポルカ、④モーツァルト：アイネ・クライネ（第1楽章）、⑤ハイドン：弦楽四重奏曲第67番「ひばり」（第1楽章）、⑥ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲第12番「アメリカ」（第4楽章）

メンバーによる各楽器の実演と説明があり、各楽器の役割や弦楽四重奏の仕組みを知ることができ、さらに目の前で迫力ある本物の演奏に触れることができるため、クラシック音楽が好きになってくれることを期待したい。

なお、演奏した曲目について、低学年の子どもたちが多数来場されていたようなので、ハイドンやドヴォルザークの弦楽四重奏曲よりも馴染みのある曲（例えば小学校低学年の「音楽の教科書」に掲載されているもの）の方がクラシック音楽に親しみを感じてもらえることができたのではないだろうか。

また、受付であらかじめ子どもたちに「白い紙&筆記用具」を配布して、後半部分での「弦楽四重奏曲の演奏を聴きながら思ったことを自由に描いてもらい、演奏終了後発表してもらおう」企画は、美

術館での演奏会ならではのとても良いアイデアであると思うが、夕方で疲れている低学年の子どもたちに短い時間の中で描いてもらうには難しかったのではないかと。子どもたちの盛り上がりにかけていたように思えた（以前、中央区立中央小学校のアウトリーチで、4・5年生を対象に実施したことがあり、イメージしやすい、大変丁寧に説明していたので、子どもたちの感性を促して様々な作品に遭遇することができた）。

中央区内でも、銀座の大きな画廊（泰明小学校に近い「日動画廊」「銀座 柳画廊」「ギャラリーためなが」など）や美術館（京橋のブリヂストン美術館は2019年秋オープン予定）などとコラボして小学生のアウトリーチや室内楽の演奏会を開催することにより、子どもたちの感性を伸ばすきっかけの一つになるのではないだろうか。

[ホール事業]〈ウィークエンド・コンサート〉

**公演名：室内楽ホール de オペラ**

**林美智子の『フィガロ』（1回目）**

**視察日時：2018年3月18日（日）14:00**

比較的馴染みのあるモーツァルト作曲のオペラ「フィガロの結婚」を、気軽に楽しく間近で鑑賞してもらうために、衣装と舞台装置を簡素にし（経費を抑え）、内外を問わず活躍している、実力派揃いのベテラン歌手と中堅・若手クラスの皆さんたちが、素晴らしいチームワークの下、本格的な声楽と迫真に迫る演技を披露されて、とても楽しい時間を共有することができた。特に舞台だけでなく、1階客席の通路部分にも歌手の皆さんが突然として出没し（オペラの冒頭部分からいきなり客席の通路に現れた演出には、度肝を抜かれた。）、観客の目の前で演じる「サービス精神」とその迫力には感動を覚えた。また、歌手の皆さんの演技力とコンビネーションも素晴らしく、今回のキャスティングだからこそ実現できた「フィガロの結婚」ではないかと思う。

さらには、ピアニストの河原忠之さんの長時間にわたる、本当に素晴らしい伴奏に加え、プロ顔負けの感動的な演技力は特筆すべきものがあり、間違いなく今回の「フィガロの結婚」を大いに盛り上げた立役者の1人であった。このように、室内オペラを心から楽しんでいる歌手の皆さん（ピアニストを含む）の多彩な演技力や積極的なサービス精神、そしてレベルの高い歌唱力により、ひと味違った「フィガロの結婚」を楽しむことができ、大変満足して帰宅した。次回は、同じキャスティングによる「オペレッタ」の舞台も楽しくなりそうなので、是非観てみたいものである。

なお、ヤング券も30～40人の来場があり、トリトン・アーツ・ネットワーク主催の公演の中では、若年層の来場が比較的多くなっていることもあり、今後もこの種の公演は続けて欲しい。

※カーテンコールの時に、写真撮影を可能とした出演者たちの粋な計らいに感謝します。素晴らしいおもてなしでした。

[コミュニティ事業]〈ロビーコンサート〉

**事業名：第一生命ホールロビーコンサート～アウトリーチセミナー講師と受講生による～**

**実施施設：第一生命ホール**

**視察日時：2018年3月27日（火）**

本公演の目的は、「アウトリーチセミナーの一環として、一般の観客を対象とした室内楽ロビーコンサートに出演することで、アンサンブル能力を磨き、作品への理解と表現力の向上を目指す。また、アウトリーチ受入校の小学生も参加できる春休みに開催し、ホールに足を運ぶきっかけとする」としている。

当日は、講師の松原勝也さん（ヴァイオリン）による挨拶と曲の紹介に引き続き、セミナー受講生3名（ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ）が加わり、小学校へのアウトリーチ（中央区立中央小学校、京橋築地小学校）でも演奏（第1楽章の冒頭部分）した「ラヴェル作曲：弦楽四重奏曲」（第1～4楽章全曲）を演奏した。

ホールの客席で聴くのと異なり、演奏者の息づかいまで感じ取れる間近な場所で、生の演奏の迫りに直接触れることができる「貴重な機会」となっている。平成29年度から2階グランドロビーでの「ロビーコンサート」がなくなってしまった現状を踏まえると、気軽に生の演奏を間近で直接触れて音楽を楽しむことができる、今では、またとない貴重な機会となっている。休憩を挟んで後半には、ゲストの柳瀬省太さん（ヴィオラ）と松本亜優さん（チェロ）が加わり、チャイコフスキーの弦楽六重奏曲を演奏された。前半とともに、大変素晴らしい演奏だったが、特に後半はゲストのお二人が加わったことで、より厚みが増してのある情熱的な演奏のように感じられた。

ただ誠に残念だったのが、アウトリーチで訪問した小学校の児童と思われる子どもたちがほとんどいなかったことである。当日会場には、一人だけ男子の小学生と思われる子どもが保護者と来場し、終演まで熱心に聴いていた。

ついでに、今後多くの児童と保護者が「アウトリーチ→ロビーコンサートへ」参加してもらえるように、教育委員会や小学校の協力も得ながら、「小学校4年生の音楽の教科書」に掲載されている曲の演奏だと、親近感が湧いて足を運んでくれるのではないだろうか。

※個人的見解：ロビーコンサートには、セミナー受講者がアウトリーチを行った小学校だけでなく、すべてのアウトリーチ実践校を対象に案内状を配布してもよいのではないかと。加えて、アウトリーチ受講児童の保護者宛てにも配布されてはいかがだろうか。

\*本視察報告は原文から誤記・文体等を一部調整させていただいております。

# 第III部 資料編

## 1. 第一生命保険との関係およびトリトンアーツ組織図

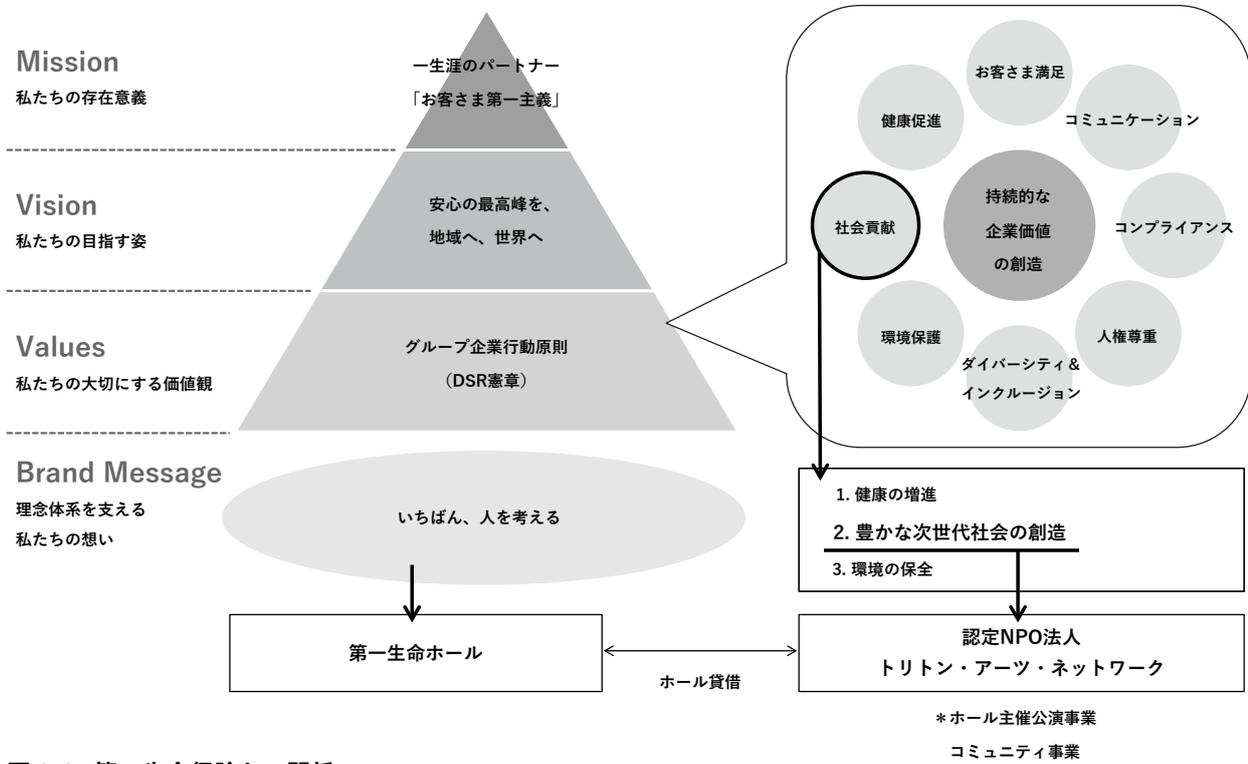


図 1-1. 第一生命保険との関係

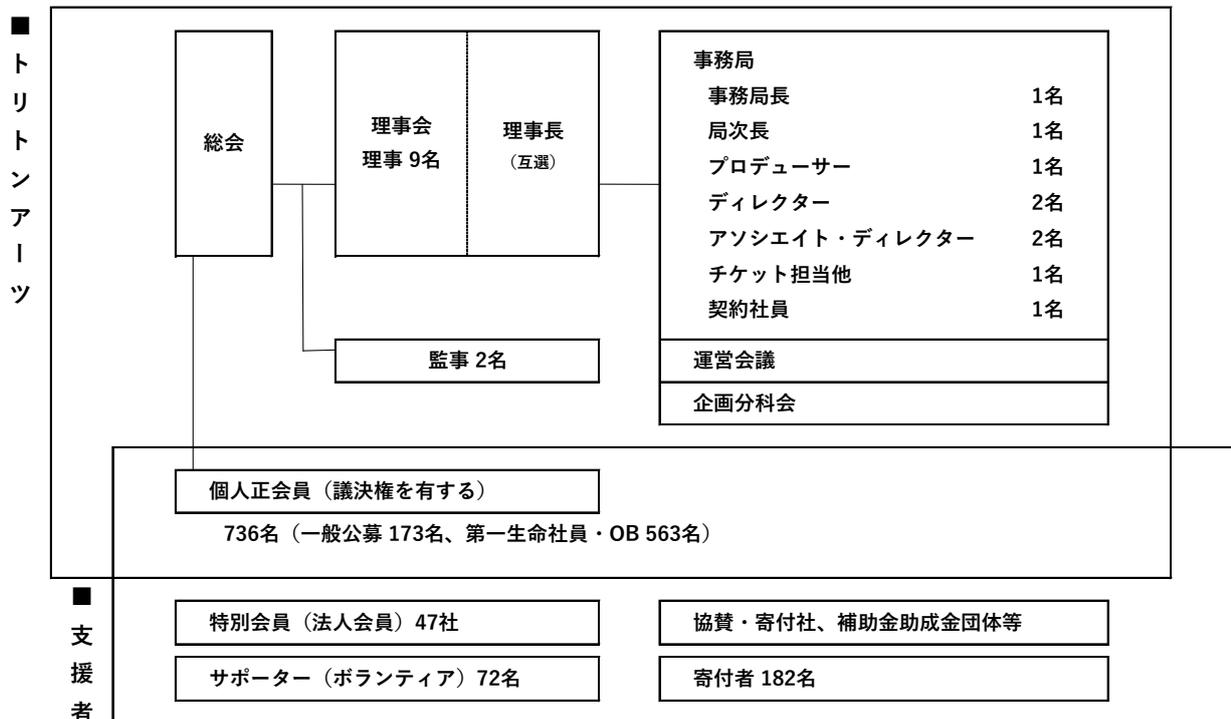


図 1-2. 組織図 (数字は 2018.4 月現在)

## 2. ホール公演事業

### 公演入場料収入・入場者数

表 2-1. 公演入場料収入、主催・共催公演入場者数

公演入場料収入 (単位：千円)	10,591	6,850	4,883	7,565	9,594	9,721	9,091	13,188	21,856
年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
主催・共催公演入場者数 (招待含む) (単位：人)	14,258	11,641	11,201	9,125	10,035	12,074	9,592	9,837	14,501
公演入場料収入 (単位：千円)	20,479	20,909	23,372	18,322	24,350	25,164	25,260	<b>25,102</b>	
年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	<b>2017</b>	
主催・共催公演入場者数 (招待含む) (単位：人)	11,501	12,513	11,403	10,094	13,174	14,721	13,083	<b>14,727</b>	

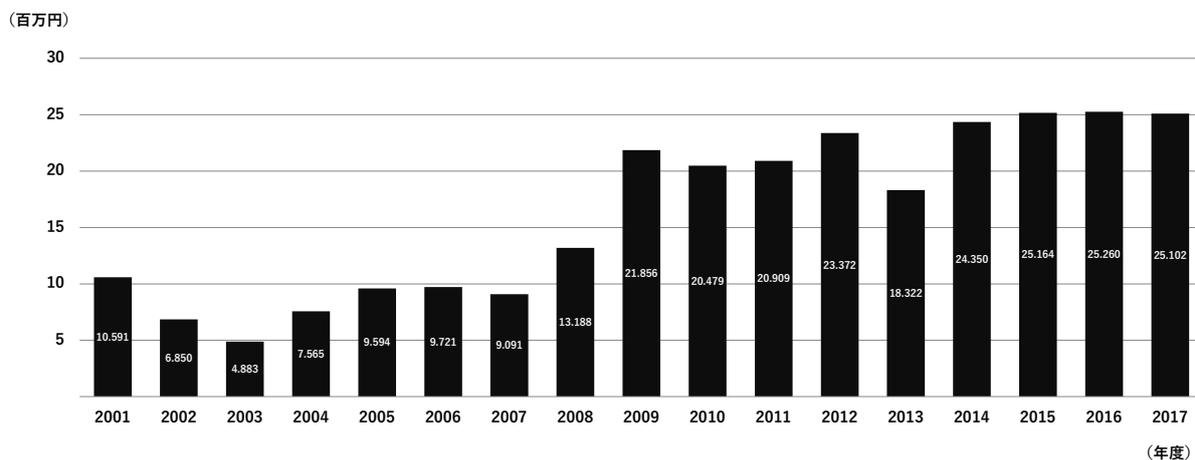


図 2-1. 公演入場料収入推移

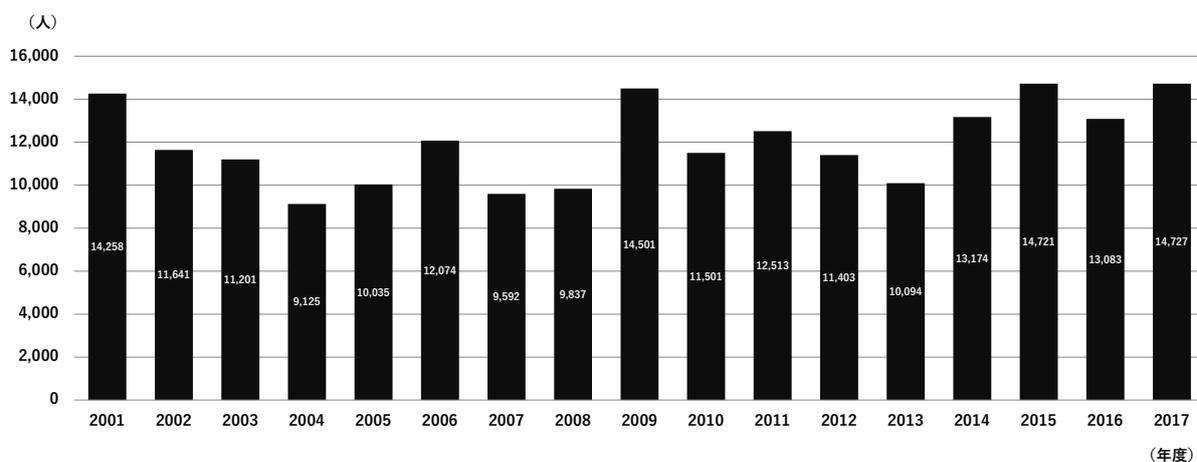


図 2-2. 主催・共催公演入場者数推移

### 3. コミュニティ事業

#### 事業実施状況

表 3-1. アウトリーチ実施場所・実施回数

場所・回数	年度														
	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
小学校	7	16	12	16	15	12	13	12	13	12	16	16	19	18	17
回数	9	16	13	18	15	12	20	21	24	18	20	19	19	18	18
幼稚園等	7	10	7	4	3	5	2	3	4	4	5	4	6	6	6
回数	8	11	7	4	3	5	2	3	4	4	5	4	6	6	6
病院・介護施設	9	11	8	5	4	7	4	3	1	2	2	2	4	5	5
回数	12	15	8	8	4	7	4	3	1	2	2	2	4	5	5
その他	3	4	5	6	5	4	4	3	2	3	4	3	2	2	8
回数	3	5	5	6	5	4	4	3	2	3	4	3	2	2	8
実施場所数計	26	41	32	31	27	28	23	21	20	21	27	25	31	31	36
実施回数計	32	47	33	36	27	28	30	30	31	27	31	28	31	31	37
協力企画	8	14	6	2	2	2	2	4	7	4	3	3	2	2	6

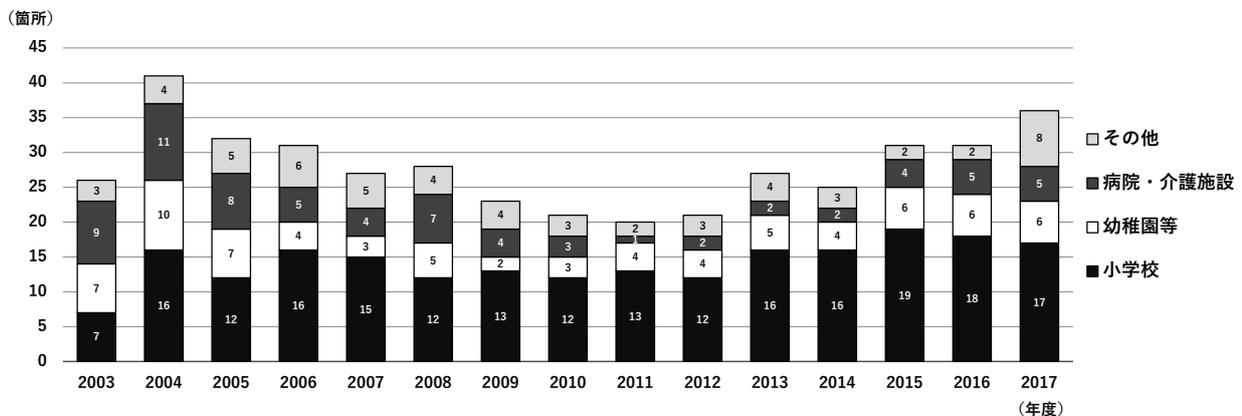


図 3-1. アウトリーチ実施場所推移

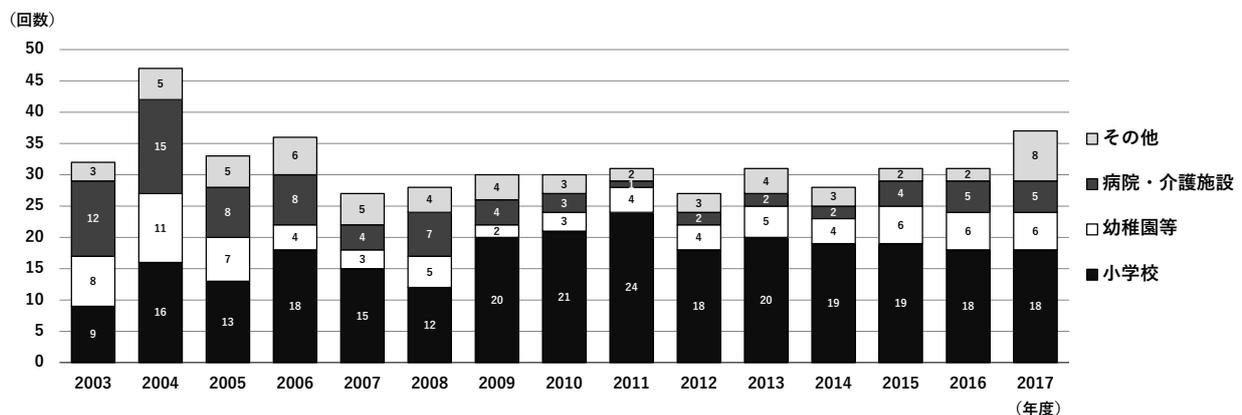


図 3-2. アウトリーチ実施回数推移

## 4. 人材育成事業

### サポーター状況（2018年3月31日時点）

表・図 4-1. サポーター数概要

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
サポーター数	143	141	128	87	84	77	68	69	58	61	73	63	73	64	72	72
うち中央区民	40	37	27	18	19	20	17	23	20	20	24	21	24	22	17	21
実働数							35	60	62	58	61	73	63	61	58	70

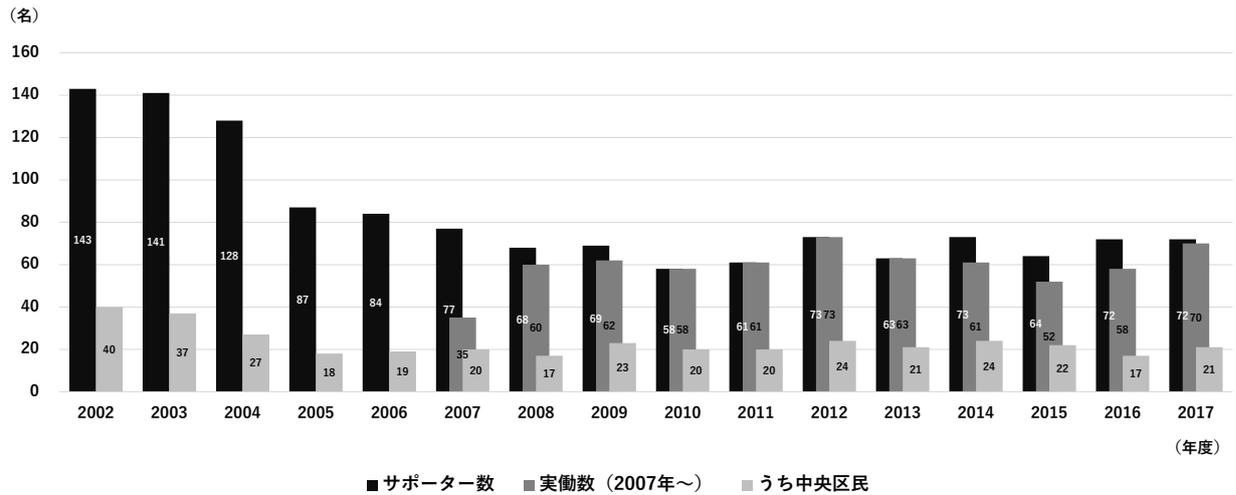
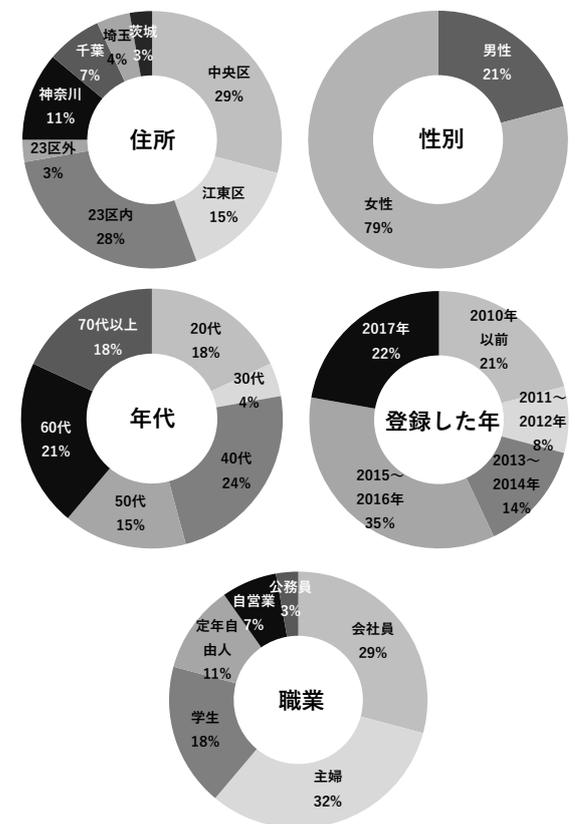


表 4-2. サポーター数推移・属性図

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	
サポーター数	58	61	73	63	73	64	72	72	
中央区	20	20	24	21	24	22	17	21	
中央区外	38	41	49	42	49				
江東区						8	8	11	
23区内						16	21	20	
23区外						6	6	2	
神奈川						6	10	8	
千葉						3	7	5	
埼玉						2	1	3	
茨城						1	2	2	
性別									
男性	16	15	20	19	19	13	18	15	
女性	42	46	53	44	54	51	54	57	
年代									
20代						7	16	13	
30代						3	5	3	
40代						14	15	17	
50代						10	10	11	
60代						18	16	15	
70代以上						9	10	13	
不明						3			
登録した年									
2010年以前(8年以上)						26	19	15	
2011年から(7年目)						2	1	1	
2012年から(6年目)						5	5	5	
2013年から(5年目)						3	3	2	
2014年から(4年目)						14	11	8	
2015年から(3年目)						14	8	8	
2016年から(2年目)							25	17	
2017年から(1年目)								16	
新規登録	前年度からの新規登録	13	17	25	9	20	13	25	16
退会状況	前年度からの退会	26	14	13	19	10	22	17	16
職業									
主婦								23	
学生								13	
定年自由人								8	
自営業								5	
公務員								2	

図 4-2. 2017年度サポーター属性



## 5. NPO ガバナンス

### 個人会員・特別会員（法人会員）・寄付等状況

表 5-1. 会員別年会費区分

個人正会員		1口 1万円
特別会員（法人会員）	エステルハージ・サークル会員	1口 10万円（5口以上）
	ラズモフスキー・サークル会員	1口 10万円（2口以上～4口以下）
	ブラボー・サークル会員	1口 10万円（1口）

表 5-2. 会員状況・助成先・協賛先推移

年度 分類		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
個人会員 (単位：口)		819	851	836	827	790	747	710	765	723	683	653	657	674	753	736
個人会費額 (単位：千円)		8,340	8,800	8,525	8,000	7,990	7,560	7,310	7,730	7,460	7,410	6,510	6,650	6,840	7,550	7,530
個人会員 内訳 (単位：口)	第一生命	505	523	513	505	486	458	447	516	502	481	455	463	484	567	563
	その他	314	328	323	322	304	289	263	249	221	202	195	194	187	178	173
年度 分類		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
法人会員 (単位：口)		23	24	32	33	31	30	41	45	44	44	43	44	44	45	46
法人会費額 (単位：千円)		12,100	9,600	11,100	11,100	10,800	9,900	16,800	19,900	20,800	20,900	21,400	21,900	22,200	22,200	20,100
助成件数 (単位：件)		5	8	6	10	8	4	7	6	9	4	3	2	2	3	2
助成金額 (単位：千円)		4,600	6,050	6,100	12,200	11,018	6,034	10,795	6,649	14,262	10,048	9,148	9,103	7,515	5,670	8,560
協賛・寄付社件数 (単位：件)		2	2	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3
協賛・寄付金額 (単位：千円)		71,090	63,604	61,650	61,198	61,170	65,730	69,801	55,500	50,600	48,500	48,600	48,800	50,000	53,750	50,250
個人寄付者 ※内諾者含む申込ベース (単位：名)												153	207	200	201	198
個人寄付金額 (単位：千円)												28	1,329	1,337	1,440	2,334

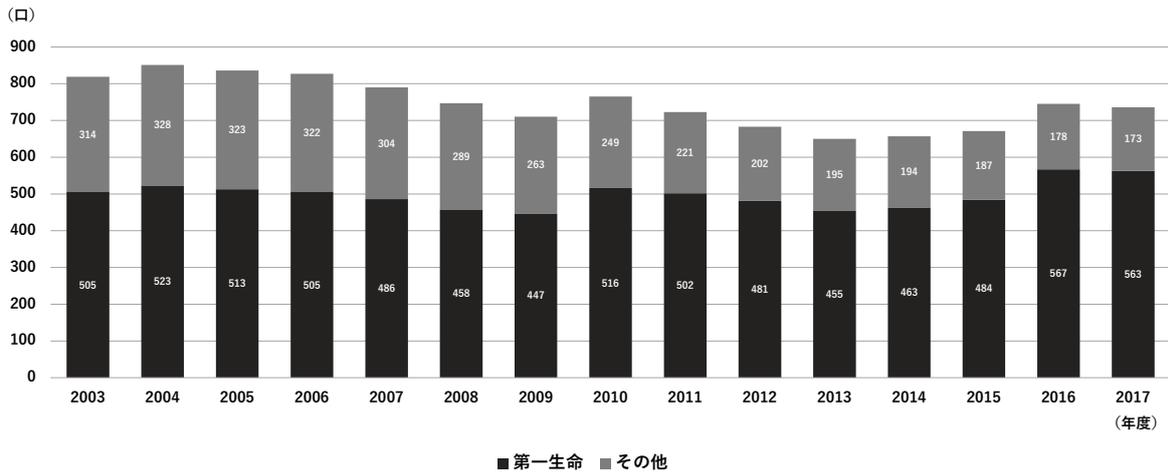


図 5-1. 個人会員数推移・内訳

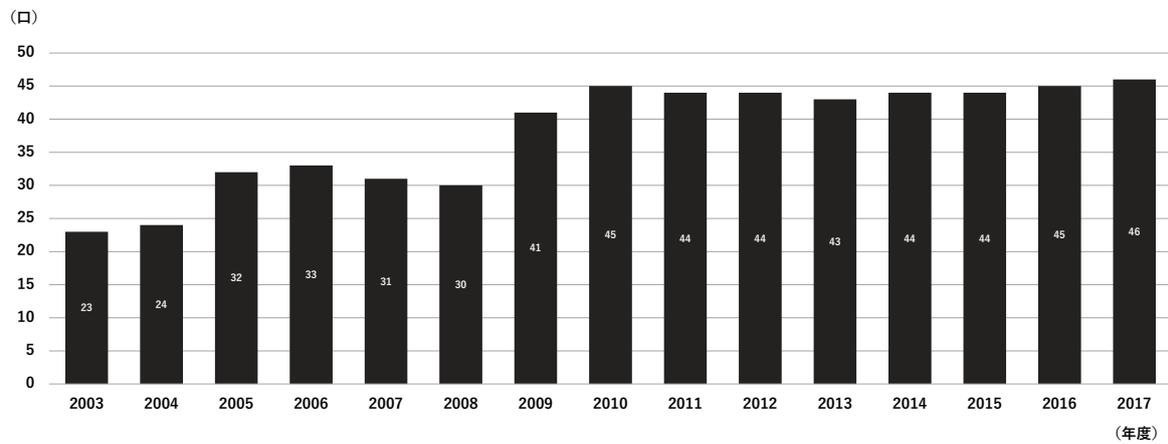


図 5-2. 法人会員数推移

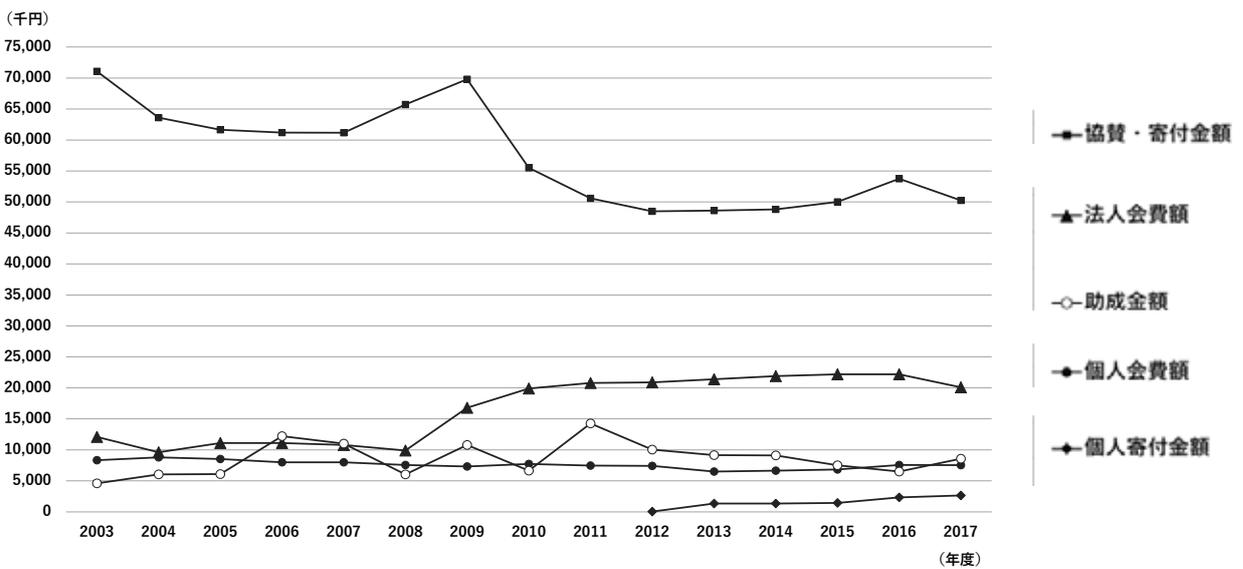


図 5-3. 会費・助成金・寄付金額推移

## 6. 2017年度トリトンアーツ主催公演における顧客分析抜粋

◎本データは、主にトリトンアーツ主催公演のトリトンアーツ・チケットデスクでのチケット購入者を対象に集計を実施。各プレイガイドでの購入者及び当日券購入者は集計対象には含まれていない。(個人正会員招待利用者は購入者としてカウント) 2017年度対象公演のシリーズ別一覧は右図のとおり。

### ◎集計方法

[購入公演数] ⇒ 購入者人数(ユニーク数)で集計  
 その他 ⇒ 購入件数(延べ人数)で集計

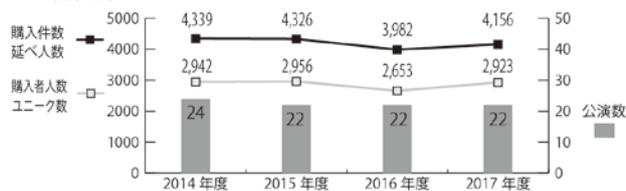
### ◎『購入履歴無』の購入者 = 初購入者

『購入履歴有』の購入者(2回目以降) = リピーター と定義

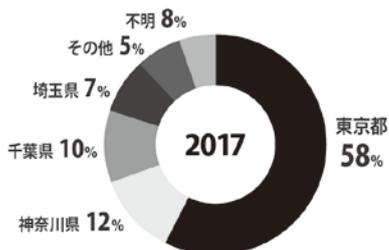
### ◎顧客の性別・年齢はオンライン会員登録をしている顧客のみ集計。

(オンライン会員登録の際、性別と生年月日が必須項目。  
 電話・来社予約等では性別・年齢情報は不要。)

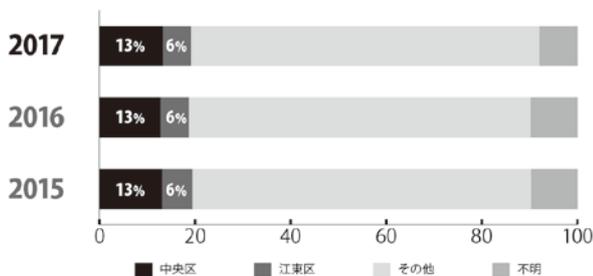
### ◎集計対象



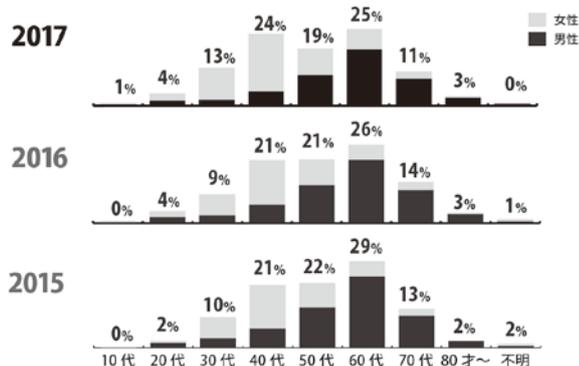
チケット購入者の居住地(オンライン予約&Tel・来社他)



チケット購入者の居住地(中央区・江東区が占める割合)(オンライン予約&Tel・来社他)



チケット購入者の年代(オンライン予約)



### ◎2017年度顧客分析対象公演

#### SQW 6公演

1	6/4 (日)	アキロン・クアルテット
2	6/10 (土)	シューマン・クアルテットI
3	6/17 (土)	シューマン・クアルテットII
4	10/29 (日)	ウェールズ弦楽四重奏団
5	2018/2/18 (日)	エルデーディ弦楽四重奏団 [共催]
6	2018/3/11 (日)	クアルテット・エクセルシオ

#### ウィークエンドコンサート 7公演

1	7/15 (土)	児玉麻里 ベートーヴェンピアノ・ソナタ選集I
2	7/28 (土)	三浦一馬 東京グランド・ソロイスト
3	10/7 (土)	晴れオケメンバーによる室内楽第1回
4	10/28 (土)	室内楽の魅力~白井亮&ハルトムート・ヘルリット・デュオ
5	11/11 (土)	トリトン晴れた海のオーケストラ 第3回演奏会
6	2018/3/18 (日)	室内楽ホール de オペラ~林美智子の『フィガロ』! (1回目)
7	2018/3/21 (水・祝)	室内楽ホール de オペラ~林美智子の『フィガロ』! (2回目)

#### 雄大と行く 昼の音楽さんぽ 4公演

1	5/10 (水)	第9回 林英姫(ギター)
2	7/26 (水)	第10回 上野耕平(サクソフォン)
3	8/23 (水)	第11回 上原彩子(ピアノ)
4	10/4 (水)	第12回 川島成道(ヴァイオリン)

#### 645コンサート 1公演

1	9/27 (水)	WASABI
---	----------	--------

#### 子どもといっしょにクラシック 4公演

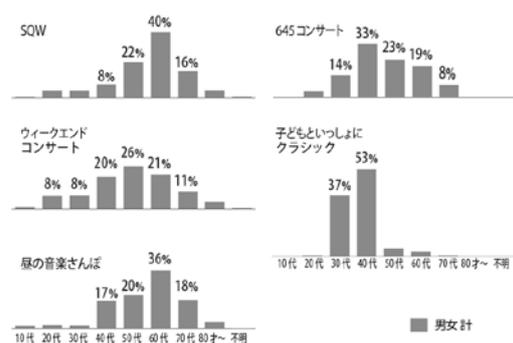
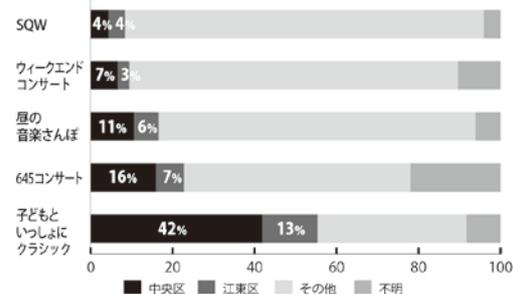
1	9/24 (日)	『音楽と絵本』コンサート『こんとあき』
2	12/10 (日)	クリスマス・オーケストラ・コンサート(1回目)
3	12/10 (日)	クリスマス・オーケストラ・コンサート(2回目)
4	2018/3/10 (土)	子育て支援コンサート『ぼくはほしのこと』

※1 12/10クリスマス・オーケストラ・コンサート(2回公演)は2公演として集計。

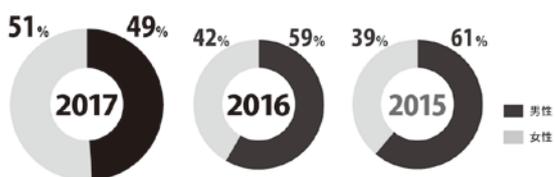
※2 ロビーでよちよちコンサート(6月・11月、2018年2・3月)は集計対象外。

※3 共催公演(4月・11月は各2公演、6月・8月・9月・10月・12月各1公演)は集計対象外。三浦一馬、エルデーディ弦楽四重奏団公演は共催公演だが集計。

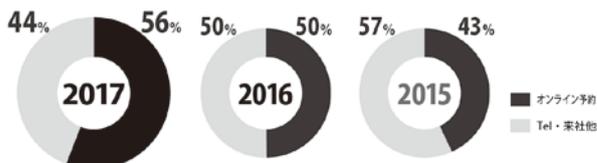
### 2017年度シリーズ別



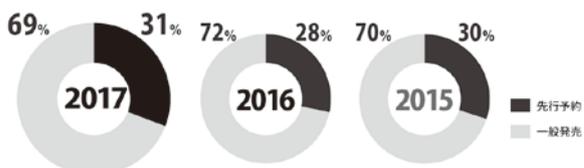
チケット購入者の男女比（オンライン予約）



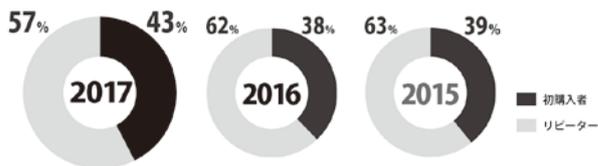
チケット購入方法（オンライン予約&Tel・来社他）



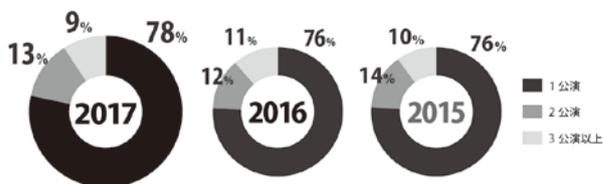
先行予約利用状況（オンライン予約&Tel・来社他）



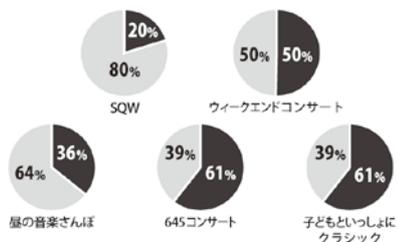
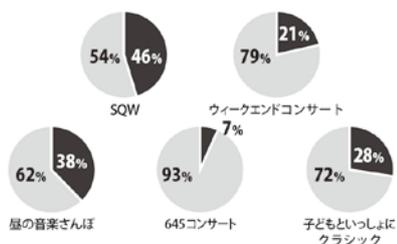
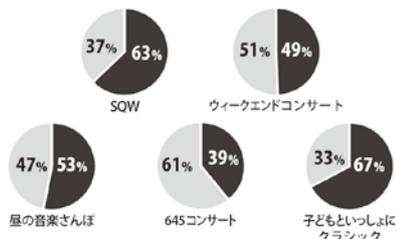
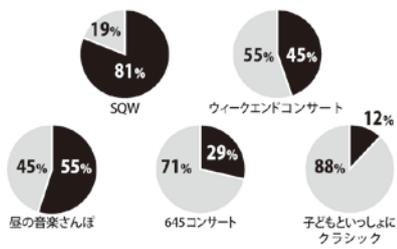
初購入者・リピーターの割合（オンライン予約&Tel・来社他）



購入公演数（オンライン予約&Tel・来社他）



2017年度シリーズ別



(出典：トリトンアーツ事務局作成資料)

認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク 2017年度事業報告書  
認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク 編

認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク 2017年度評価事業報告書  
認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク評価委員会 編

---

発行 2018年7月

認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク  
〒104-6005 東京都中央区晴海1-8-10 晴海アイランドトリトンスクエアX棟5階  
TEL : 03-3532-5701 FAX : 03-3532-5703  
<http://www.triton-arts.net>